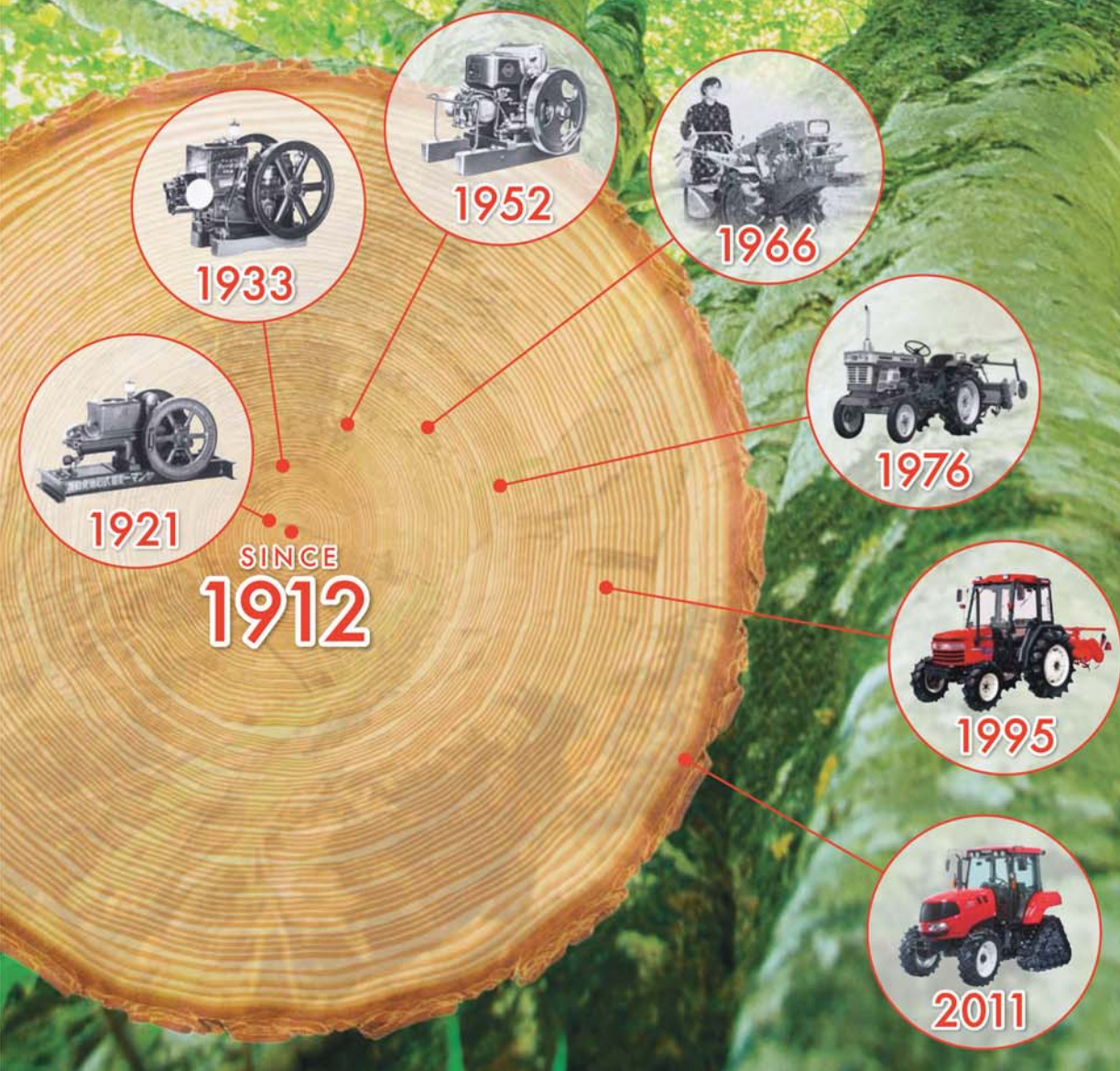


**W!F**  
Vol. 22  
農業の夢追人  
Wonder Field

全国版



Wonder Field vol.22 (全国版) 平成24年4月発行/編集・発行 ヤンマー農機販売株式会社「Wonder Field」編集部 〒530-8321 大阪府大阪市北区鶴野町1-9 梅田グレートタワー



**YANMAR**

■創業100周年 ヤンマールの歩み

特集 日本農業  
6次産業化の時代へ

先進農業事情

低農業と高収益性で個人経営規模トップクラス!  
青森県青森市 大柳壽憲さん

大型農機の導入で人参の大規模栽培にチャレンジ!  
徳島県板野郡 岡本昌士さん 岡本祥輝さん

転作請け負いで日本一の営農集団を目指す!  
滋賀県甲賀市 有限会社共同ファーム

機械力とチームワークで集落営農の成功モデルに!  
福岡県久留米市 Farm ZEN

安心を、未来へつなぐ食料自給率1%アップ運動  
**FOOD ACTION NIPPON**  
ヤンマーは、FOOD ACTION NIPPONの推進パートナーです。

Wonder Field 不思議・驚き・好奇心。大地に夢を求め、農業に人生を託し、プロフェッショナルをめざす夢追人。そんな人々を応援する情報誌です。

# ヤンマー創業100周年 社長メッセージ



ヤンマー株式会社  
代表取締役社長

山本健人

2012年3月、当社は創業100周年を迎えることができました。この記念すべき年を迎えるにあたり、私がヤンマーグループを代表しご挨拶させていただくことをたいへん名誉に感じております。

当社グループは、産業用小形ディーゼルエンジン事業を柱に、農業、漁業をはじめとする多様な産業分野へ商品やサービスを提供してまいりました。その多くはライフサイクルの長い製品群であり、お客様に長くご愛用いただき愛されてまいりました。当社が無事100周年を迎えられたことは、ひとえにお客様の末永いご愛顧のおかげと心から感謝申し上げます。

当社の発展は、農業漁業に従事する人々の厳しい労働を軽減したいと、創業者山岡孫吉が開発した小形ディーゼルエンジンに始まります。孫吉は、農業用作業機に、燃料効率の高い小形単気筒ディーゼルエンジンを搭載し、農業の機械化を推進。耐久性に優れたこのエンジンは漁船用エンジンとしても受け入れられました。その後、建設機械や発電機へ、戦後には船用大形ディーゼルエンジンへ事業領域を拡大しました。さらに、エネルギー効率を向上させることは労働の軽減をもたらし、人々により豊かな生活や余暇をもたらしてきました。このような時代の変化の中で、ヤンマーも住生活分野やレジャーボート分野へ事業を拡大してきたのです。

一方、100年前の社会が直面していた課題と、これからの100年に世界が直面する課題は異なります。世界は今後、人口爆発による食料不足、気候変動、エネルギー問題など困難な課題に直面します。そういった中で、持続可能な社会を実現するため、当社グループが今後どの領域でどのように貢献したいかという思いを明

示した新しいミッションステートメントを掲げました。

一滴の燃料を効率良く動力に変換し、その動力を生かして厳しい労働の軽減に役立て人々の生活を向上させたい…創業者が掲げた基本理念「燃料報国」は、今後も基本姿勢として変わることはありません。新ミッションステートメントのもと、当社グループは、これ迄の100年に培った技術を生かして、食料生産とエネルギー変換という人の生命の根源に関わる事業領域で、ソリューションの提供に挑戦してまいります。

まず食料生産の分野ですが、日本においては農業の大規模化や就農者確保に対応した支援が求められています。またアジアにおいては消費地と生産地を結ぶ食料流通支援など、多くの課題に直面しています。

それらに対する当社ソリューションの一例を挙げると、ヤンマーアグリノベーション株式会社直営のモデル農場では、農業への参入を希望する企業の人材を受け入れ、農業研修を実施。農産物の生産から販売まで農業ビジネスの流れを体験しながら、次世代の農業リーダーが育っています。このように持続可能な農業経営やより低コストで効率的な食料生産、食の付加価値づくりなど様々な解決策を、世界中で提供できると確信しています。

エネルギー変換の分野では、来るべき100年も、地球環境への負荷を最小限に抑えながら、エネルギー効率の最も高いエンジンを作るのは私たちが強い決意は変わりません。燃料効率の絶えざる向上をめざすエンジン開発のリーダーとして、今後もたゆまぬ研究開発に邁進します。

さらに世界のエネルギー供給が大きな転換期を迎えた今日、非常用発電、コージェネレーションなど当社が手がけてきた技術に、グリーンエネルギーをはじめとするエネルギー変換技術を組み合わせ、環境負荷の小さい最適効率のエネルギーシステムを構築する。そして未来の子供たちが安心して暮らせる豊かな地球環境づくりに貢献することが、私たちに課せられた社会的使命と認識しています。

次の100年もお客様から愛される企業グループであるために、当社グループは一丸となって、お客様の課題解決に取り組んでまいります。末永いご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## ミッション ステートメント

わたしたちは

自然と共生し

いのち  
生命の根幹を担う

食料生産とエネルギー変換の分野で

お客様の課題を解決し

未来につながる社会と

より豊かな暮らしを実現します。

## Contents

ヤンマー創業100周年 社長メッセージ	1
ヤンマー 100年の歩み —日本農業に寄り添い歩んだ道—	2
特集—日本農業6次産業化の時代へ—	4
6次産業化の先達たち その技・発想・情熱に学ぼう	6
風景、作物、料理、動物たち すべてが繋がって、6次産業化です	8
農政TOPICS 我が国の食と農林漁業の再生のための 基本方針・行動計画	10
YANMAR NEWS 水田裏作・転作畑の野菜づくりに最適! 湿害防止と省力化が実証試験で明らかに。 ヤンマー二軸整形ロータリ(表層細土整形ロータリ)	12
先進農業事情 ●低農薬と高収益性で個人経営規模トップクラス! 青森県青森市 大柳壽憲さん	14
●転作請け負いで日本一の営農集団を目指す! 滋賀県甲賀市 有限会社共同ファーム	16
●大型農機の導入で人参の大規模栽培にチャレンジ! 徳島県板野郡 岡本昌士さん 岡本祥輝さん	18
●機械力とチームワークで集落営農の成功モデルに! 福岡県久留米市 Farm ZEN	20
新商品紹介 全自動野菜移植機 PF1 乗用全自動野菜移植機 PF2R たまねぎ収穫機 HT20A 歩行型たまねぎピッカー HP90T 人参収穫機 HN100,F	22
安全・安心作業のための点検・診断講座 田植機編	24
旬の農業書ご紹介	26
Homemade Cooking 米粉ミックス粉のフルーツロール	27
ヤンマー学生懸賞論文・作文入賞者発表	28
わが家のステキな女性へ! Wonderful Women	29

■ ヤンマーのあゆみ

明治45年 1912 山岡発動機工作所として創業  
 ガス発動機と吸入式ガス発動機を販売  
 大正10年 1921 商標を「ヤンマー」とする  
 横形石油発動機完成  
 大正14年 1925 漁船用  
 石油発動機発売  
 昭和8年 1933 世界初の小形横形  
 水冷ディーゼルエンジンH形(5~6馬力)完成  
 昭和11年 1936 山岡内燃機株式会社を設立  
 昭和12年 1937 「燃料報国」を  
 モットーとして掲げる  
 昭和24年 1949 農村振興のため永原農村精密工場を設置し、  
 小形ディーゼルエンジン用燃料噴射ポンプ部品を  
 製造開始。その後、農村工場は石道・大森・音浦にも設置  
 昭和27年 1952 社名を「ヤマディーゼル株式会社」に改称  
 世界最小の横形ディーゼルエンジンK1形  
 (15~2馬力)完成  
 昭和30年 1955 社長山岡孫吉が  
 ドイツ発明協会から  
 ディーゼル金賞牌を  
 授与される  
 昭和34年 1959 テレビで「ヤン坊マ坊天気予報」の  
 提供開始  
 世界初の小型空冷ディーゼルエンジン  
 A2形(2馬力)A3形(3馬力)発売  
 昭和41年 1966 小型建設機械第一号ハンドローザーHD5形発売  
 昭和43年 1968 品質管理による業績向上を認められ、  
 ディーゼルエンジン業界で初のデミング賞実務賞を受賞  
 昭和46年 1971 小型建設機械「ミシヨヘルBYB600」発売  
 昭和47年 1972 ヤンマー造船株式会社設立  
 FRP船の生産を開始し船用エンジン  
 から船までの総合メーカーへ事業拡大  
 昭和55年 1980 レンジャー船「ハンター」を発売しレジャーボート市場へ進出  
 昭和58年 1983 世界最小の空冷ディーゼルエンジン  
 L形開発  
 昭和59年 1984 南極昭和基地で  
 ヤンマー  
 コージェネレーション  
 システム運転開始  
 昭和62年 1987 ガソリンポンプ「エプソン」を  
 発売し空調事業に参入  
 昭和63年 1988 栽培漁業の研究開発拠点  
 ヤンマーリサーチーム設立  
 平成4年 1992 ディーゼルエンジン生産累計1000万台達成  
 平成5年 1993 ヤンマーサッカークラブを母体とする大阪サッカークラブを  
 共同設立しセレッソ大阪としてJFLに参戦  
 平成6年 1994 超小旋回ミニシリンダーシリーズ発売  
 平成7年 1995 滋賀県びわ湖に  
 最新設備のエンジン工場  
 びわ湖工場竣工  
 平成14年 2002 創業90周年を迎え  
 社名をヤンマー株式会社に変更  
 平成16年 2004 世界最高の発電効率を発揮する  
 マインローコージェネレーション発売  
 平成19年 2007 ディーゼルエンジン実用化  
 最小モデルH形が  
 機械遺産に認定  
 平成24年 2012 ヤンマー創業100周年

■ ヤンマー農業分野のあゆみ

大正10年 1921 農村に石油発動機普及のため  
 動力粉すり機(日本初)・  
 揚水用パーチカルポンプ発売  
 昭和12年 1937 陸王号耕うん機、  
 岡田式トラクタを発売  
 昭和30~35年 1955~1960 ヤンマー農用ディーゼルエンジン  
 年間販売台数、  
 5万台から10万台に倍増  
 昭和36年 1961 ヤンマー農機株式会社設立  
 エンジン専業メーカーから  
 総合農機メーカーへ事業拡大  
 ライスセンターの本格的販売開始  
 昭和39年 1964 昭和41年 1966 ディーゼル耕うん機  
 YCSシリーズ発売  
 昭和46年 1971 カントリーエレベーターの本格的販売開始  
 昭和47年 1972 世界最大の農業トラクタメーカー  
 米国ディア社とジョントリア  
 トラクタ輸入販売契約締結  
 昭和48年 1973 トラクタ「コンバイン」  
 年間販売台数1万台突破  
 昭和61年 1986 ヤンマーコバイン生産累計  
 22万台突破  
 平成2年 1990 第二回ヤンマー学生懸賞論文募集  
 平成3年 1991 石川島芝浦機械株式会社と業務提携締結  
 平成4年 1992 野菜機械化ナラ  
 システム本格開発着手  
 平成8年 1996 産業用無人リコバイン  
 事業の拡大を目的に  
 ヤンマーリサーチーム株式会社設立  
 平成10年 1998 中国で洋馬農機(中国)有限公司設立  
 平成16年 2004 タイでヤンマー農機タイランド設立  
 平成17年 2005 韓国でヤンマー農機韓国設立  
 平成21年 2009 ヤンマー農機株式会社と合併  
 ヤンマー株式会社と合併  
 平成22年 2010 ヤンマーグリノバイン株式会社を  
 設立し農業ビジネスに参入  
 大正10年 1921 農村に石油発動機普及のため  
 動力粉すり機(日本初)・  
 揚水用パーチカルポンプ発売  
 昭和12年 1937 陸王号耕うん機、  
 岡田式トラクタを発売  
 昭和30~35年 1955~1960 ヤンマー農用ディーゼルエンジン  
 年間販売台数、  
 5万台から10万台に倍増  
 昭和36年 1961 ヤンマー農機株式会社設立  
 エンジン専業メーカーから  
 総合農機メーカーへ事業拡大  
 ライスセンターの本格的販売開始  
 昭和39年 1964 昭和41年 1966 ディーゼル耕うん機  
 YCSシリーズ発売  
 昭和46年 1971 カントリーエレベーターの本格的販売開始  
 昭和47年 1972 世界最大の農業トラクタメーカー  
 米国ディア社とジョントリア  
 トラクタ輸入販売契約締結  
 昭和48年 1973 トラクタ「コンバイン」  
 年間販売台数1万台突破  
 昭和61年 1986 ヤンマーコバイン生産累計  
 22万台突破  
 平成2年 1990 第二回ヤンマー学生懸賞論文募集  
 平成3年 1991 石川島芝浦機械株式会社と業務提携締結  
 平成4年 1992 野菜機械化ナラ  
 システム本格開発着手  
 平成8年 1996 産業用無人リコバイン  
 事業の拡大を目的に  
 ヤンマーリサーチーム株式会社設立  
 平成10年 1998 中国で洋馬農機(中国)有限公司設立  
 平成16年 2004 タイでヤンマー農機タイランド設立  
 平成17年 2005 韓国でヤンマー農機韓国設立  
 平成21年 2009 ヤンマー農機株式会社と合併  
 ヤンマー株式会社と合併  
 平成22年 2010 ヤンマーグリノバイン株式会社を  
 設立し農業ビジネスに参入

1910 1930 1950 1970 1990 2010

トラクタ

昭和38年 1963 ヤンマー初の  
 トラクタYM形  
 (12・13・14馬力)発売  
 昭和49年 1974 業界初、  
 ベルギヤ式  
 4輪駆動  
 トラクタ誕生  
 昭和51年 1976 世界初小型トラクタに  
 ノークラッチ  
 パワースhift機構採用  
 昭和60年 1985 業界初、トラクタで  
 グッドデザイン賞受賞  
 昭和61年 1986 業界初、作業機の着脱が  
 容易なクイックヒッチ採用  
 平成元年 1989 業界初、電子制御  
 エンジン搭載  
 平成7年 1995 業界初、省エネ、  
 省時間を実現した  
 高速耕うんトラクタ  
 エコトラシリーズ発売  
 丸ハンドル  
 フルクローラ  
 トラクタ発売  
 平成18年 2006 国産初、電子制御  
 無段変速HMT  
 搭載  
 平成21年 2009 世界初、高効率  
 無段変速HMTエンジン搭載  
 平成23年 2011 ヤンマー初の  
 ハイフクローラ  
 トラクタ発売

EG105 EG782 US46R F535 F80D YM2210 YM1500D YM12A

100th ANNIVERSARY

日本農業に寄り添い

道

HISTORY OF YANMAR

田植機

昭和42年 1967 動力田植機  
 時代の幕開け  
 昭和43年 1968 紐苗式の歩行型田植機発売  
 昭和47年 1972 苗マント式  
 田植機発売  
 昭和52年 1977 胴体屈折機構を  
 備えた前植式  
 兼用型田植機発売  
 昭和57年 1982 現在主流の  
 後植式  
 兼用型田植機発売  
 昭和63年 1988 ローター式植付け部  
 を新規採用  
 平成2年 1990 小規模・  
 兼業農家向け  
 小型・軽量  
 田植機発売  
 平成8年 1996 高い伝達効率と  
 取扱い性向上を  
 両立させた  
 CVT変速採用  
 平成14年 2002 新世代シリン  
 無段変速HMT採用  
 平成23年 2011 業界最速の  
 植付け速度  
 1.85m/sを実現

RG6 GP6 Pe-4 YPR5000 YP6000 YP2 Y30P FP2

コンバイン

昭和44年 1969 ヤンマー初の  
 コンバイン  
 (歩行型)誕生  
 昭和47年 1972 コンバイン専用  
 脱穀部を搭載した  
 兼用型2条刈り  
 コンバイン発売  
 昭和50年 1975 業界初、コンバインに  
 ノークラッチパワースhift機構採用  
 昭和60年 1985 フラックスを再処理  
 してロスを低減する  
 直交処理胴搭載  
 昭和61年 1986 稲麦、大豆、ソバ等  
 多品種を収穫できる  
 汎用型低コスト  
 コンバイン発売  
 平成元年 1989 ヤンマー初、  
 5条、6条刈り大型コンバイン  
 CA-MAXシリーズ発売  
 平成3年 1991 アタッチメントの  
 組替えて多品種の  
 作物を収穫できる  
 大豆用コンバイン発売  
 平成6年 1994 生研機構の緊プロ初号機  
 CA1200発売  
 平成8年 1996 丸ハンドルFDS  
 フルタイムドライブシステムを  
 採用した5条、  
 6条刈り  
 コンバイン発売  
 平成23年 2011 大型プロ  
 農家向け  
 6条、7条刈りコンバイン発売

AG7114 GC80 CS21 CA600 CA21 TC750 TC500

# 1×2×3 6次化

## 流れは変わるか？ 日本農業 6次産業化の 時代へ

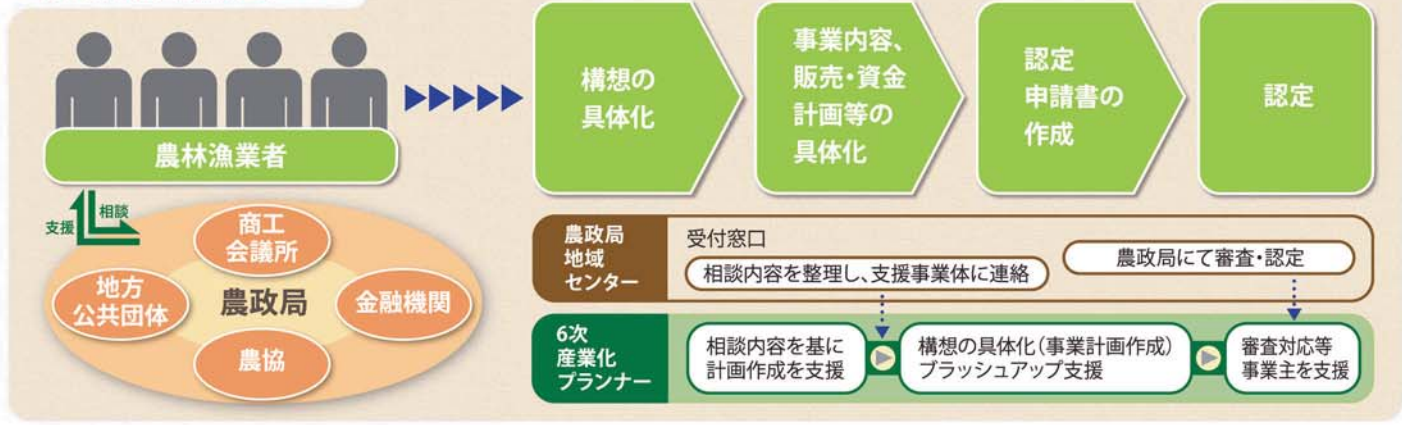
平成23年3月、「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律」、通称「6次産業化法」が施行されました。6次産業化とは、農林水産業者が生産から食品加工・製造、販売、情報サービスや観光事業にまで進出し、所得・雇用の拡大と地域産業としての存在意義を高めていく取り組み。弱体化しつつある日本の第一次産業の底上げと地域活性化など、多様かつ複合的な目標に向けての国家戦略の一つであり、志を持つ農家には様々な支援制度も整えられています。法施行に伴いスタートしたこれらの支援制度とともに、6次産業化の成功例なども紹介。時代に生き残る農業の方向性を、具体的なカタチで探ってみました。

### 「6次産業化」 チャレンジの領域は広い

インターネットによる生産者と消費者の直販ルート作りや、収穫した野菜や果物を使った野菜ジュースやジャムの加工販売など、収益性を高めるために農家が他業種へ進出していく例は少なくありません。国は6次産業化法により、こういった動きに対して本格的なテコ入れを開始しました。農林水産省による6次産業化の考え方を現したのが下の図です。作り手発想では、つい農産物に目が向き、加工や販売売場だけにとらわれがちですが、「6次産業」とは「1次産業」と「2次」「3次産業」の領域をすべて掛けあわせる（1×2×3＝6）のことを意味しており、理想とするのは生産、加工、販売、そして流通やサービスなどが融合した産業の新しい形。その中には観光事業や情報、エネルギー事業まで幅広い領域が含まれます。

どで構成されており、後者は既に6次産業化に取り組んでいる先達です。  
6次産業化プランナーは都道府県の「6次産業化サポートセンター」※1で紹介してもらえますし、ボランティア・プランナーは農水省ホームページ※2にリストが掲載されています。このように専門家による個々の案件への支援対応が、今回の政策の大きな特長です。  
②認定後の資金面中心のサポート  
6次産業化法の認定を受けると、主に次のようなメリットがあります。  
◆農業改良資金として無利子融資を特別適用で活用。（特別適用では償還期間と据置期間が2年延長可能）。  
◆短期運転資金（新スーパース資金）の貸付け。  
◆新商品の開発や販路開拓の取り組みに対して費用の2/3を補助。  
◆農業法人等が新しく加工や販売に取り組む際の施設整備に対する補助。  
◆6次産業化に向けての交流会や研修会の開催に対する補助。  
（注）融資や補助の決定には別途審査があります。

### ■事業計画の認定フロー



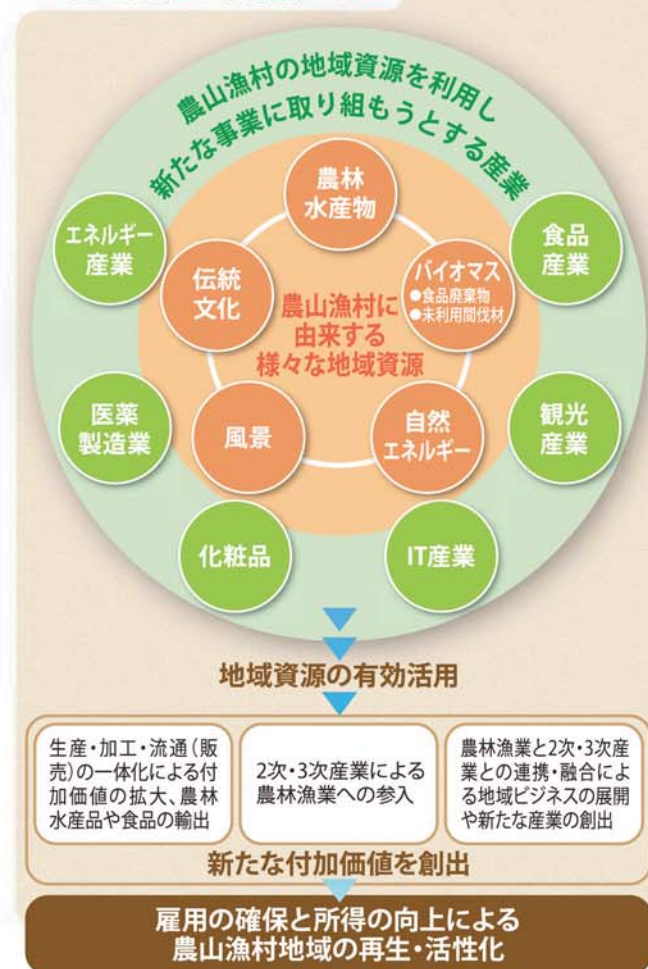
### 再生可能エネルギーなどに 大きな関わり

たとえば、その地域独特の自然環境や文化も6次産業化の素材。都会に住む人に畑仕事を体験させる観光ツアーや、農園や牧場のレストラン経営も6次産業化といえます。また、組合や集落単位でおこなう村おこしなども展開によっては6次産業化となります。さらに、バイオマス（動物や植物を使った再生可能な有機資源）や、農地の自然資源である引用水や太陽光などを使った再生可能エネルギーの活用なども6次産業化の領域に入ります。これらは、時代が省資源や低炭素社会へ向かう中で、伸びしろの大きい分野といえます。

### 国の支援制度を チェックしよう

今回の法施行に伴う一連の動きによって、6次産業化を志す農家や農業法人は、様々なサポートを受けることができるようになりました。  
①事業の計画段階でのサポート  
資金面などの支援を受けるには、事業計画書を提出し、国の認定を受ける必要があります。計画書の提出先は各地域の農政局担当窓口です。（P7参照）  
農政局窓口では、地域の公共団体や商工会、JAなどと連携して事業計画の相談に対応してくれます。また、国では各地域で6次産業化を推進する人材として「6次産業化プランナー」とボランティア・プランナーを選定し、サポート活動を実施。前者は経営コンサルタントや、加工・流通業者な

### ■6次産業化が目指すもの



6次産業化—  
こんな場合はこんな支援が  
受けられます。

農作物の  
加工や販売に  
新たに組み込みたい

農作物の輸出に  
チャレンジ  
したい

6次産業化プランナーがアドバイス  
商品開発やマーケティングの専門知識を持つ  
6次産業化プランナーが、加工製造による  
ブランド作り、販路開拓などについて知識  
やノウハウを提供。

6次産業化プランナーがアドバイス  
海外市場や貿易に詳しい6次産業化プランナーが、輸出にあたっての様々なポイントをアドバイス。

研修会や交流会を開催  
6次産業化サポートセンターなどが各種技  
術研修会やビジネス交流会などを開催。

事業化したいが  
資金面が  
不安な場合…

国が補助金でサポート  
新商品開発や販路開拓に係る費用を国が  
補助。6次産業化認定後は補助率が向上  
（1・2から2/3へ）

無利子融資を1億5千万円まで利用可能  
認定後は、施設整備資金を個人で5千万  
円、法人で1億5千万円まで無利子で利  
用できます。

地元で加工施設を  
作りたい

認定後は、特別措置として償還を10年から  
12年に、据置を3年から5年に延長可能。  
短期貸付を4000万円まで利用可能  
認定後は、運転資金として新スーパース資  
金（無担保無保証人）を個人で1千万円、  
法人で4千万円まで利用できます。

国が補助金でサポート  
農業法人の経営多角化、地産地消活動や、  
食品メーカーなどとの安定的な取引関係の  
もとに食品加工・販売所や農業機械・施設  
などの整備をする場合は、費用の1/2を  
国が補助。（申請は認定者に限定）

※1 都道府県の「6次産業化サポートセンター」  
については、P7の地域農政局ホームページ  
または電話番号でお問い合わせください。  
※2 農水省HP「6次産業化情報」  
www.maff.go.jp/j/shokusan/sanki/6jika.html



# 6次産業化の先達たち その技・発想・情熱に学ぼう

今回の法制化の以前から、農業の新しい可能性を模索する多くの人が6次産業化への道に挑んできました。形はそれぞれ違えど、共通するのは、将来への危機感を持ち、自分たちの強みを活かすことで新路を開拓した点でしょう。そこには、あらゆる農家にとっての生き残りのヒントがあるはずです。



**伝統のもち米や米粉で地域おこし。**  
滋賀羽二重糯は、「幻のもち」といわれる希少価値の高い上質のもち米。しかし栽培の難しさもあり栽培農家は減少。そこで小佐治のもち米のブランド力再興作戦が平成6年にスタート。集落が一体となり、生産・加工・販売の一貫拠点となる「甲賀もちふるさと館」を開設し、もち米による地域おこしにまで目標を高めました。よもぎあん餅などもち米を原料とした様々な製品づくりに取り組み、最近では、米粉商品の開発に着手。米粉めん、たい焼、パスタなどを製造し、6次産業化の先進事例となっています。



<http://www.koka-mochi.jp/>



**夏みかん価格低迷期にマーマレードと米粉パン製造販売で打って出て、成功。**  
地元特産品であった夏みかんが価格低迷した時期、農家の主婦を中心とした生活改善グループ50名の共同出資で平成13年、有限会社を設立。みかんの加工食品マーマレードやジャム、また地域の米を原料にした米粉パンの加工販売に乗り出しました。幼稚園などを供給ルートとして開拓し、徐々に売上実績も向上。組織結成から9年経った現在は「道の駅」を拠点とした事業展開に力を入れ、年間売上高5千万円を超えています。



<http://izuminosato.fem.jp/index.html>



**高付加価値商品の生産・加工とコスト低減による収益率アップ**  
柏崎青果では、県の特産物であるにんにくの規格外品を使った新たな製品開発を開始。元弘前大学医学部教授の協力を得て平成19年、おいらせ黒にんにくの商品化に成功、生のにんにくの約5.8倍のポリフェノール、活性酸素を抑える酵素の働きが約3.4倍という特長を持ち、にんにく特有の臭いを取り除いたこの製品は、はねもの（規格外）活用による収益性の高さも魅力。「第1回ものづくり新世紀 青森元気企業顕彰」なども受賞しています。



<http://www.aomori96229.jp/>



**規格外作物のドリンク化で海外販路を開拓**  
合志市の特産物・大葉の規格外作物の有効利用を模索していた生産者が、公的機関や食品産業の協力体制をフルに活用しながら、新しい飲料加工製品を開発、成功に導きました。加工製品はしそドリンク、青しそ茶など、十種類以上。いずれも平成18年から生産情報公表JAS規格で生産している高品質大葉が原料。生産者は、新商品の模索時期から、県の産業技術センター、農業法人協会・起業塾などでアイデアを形にする生産技術、販売技法の習得に努め、6次産業化法制化以前の環境下で地域資源事業計画等を活用し、生産・加工・販売の一元管理体制を確立。現在、香港・シンガポール・イギリスなど海外からの受注もこなしています。



<http://shiso.net/index.html>



**都市農家と多業種、大学の連携で長寿社会向けの加工商品を開発**  
大学発のベンチャー企業である食品製造・販売会社が、創価大学、八王子の農家、商工会などと提携。桑の新品種「創輝」の開発と加工食品のブランド化を実現させた産学公の連携6次化モデル。この新品種は血糖値上昇を防ぐDNJという成分を従来の桑より多く含む上、食物繊維やミネラルが豊富。平成17年より栽培され、加工・研究方法が模索された結果、平成20年より量産化に成功。独特の甘み・うまみとともに健康維持面での高い付加価値が消費者の評価を獲得しています。



<http://sohki.net/>



**米生産から米粉ビジネスへ。親子が手を組んだ新たな事業モデル**  
米農家を営む父親とパン製造所を立ちあげた娘がタッグを組んで取り組んだビジネスモデル。父が経営する「MK農産」の米を委託製粉し、さらに放し飼いの有精卵を使って娘さんが地産地消の米粉パンの製造販売を開始。「米工房Jasmine」の名前で立ち上げたお店は、米・卵以外にも積極的に地元生産者の素材を使用した「こだわり」が大きな評価と共感を獲得、パン部門の売上は開店1年で4倍、農業部門の新規需要米の作付け面積も増大。地産地消という考え方の徹底、地域マスコミ、ロコミを活用したPR作戦が成功につながりました。農水省HP [www.maff.go.jp/j/shokusan/sanki/6jika/jirei/index.html](http://www.maff.go.jp/j/shokusan/sanki/6jika/jirei/index.html) 6次産業化【100事例】北陸



**農家を民宿化、癒し効果で都市の修学旅行を誘致**  
集落の過疎化、農業収入の減少を憂慮した農家が、同業の仲間や住民、地元観光業者などと連携。農家のグループが自家を民宿として、修学旅行生の受け入れを開始しました。旗振り役となったおた農園が平成9年、農村の持つ癒し効果を利用した農家民宿へ取り組んだのがきっかけ。翌年、同農園オーナーの説得で、30軒の農家が修学旅行の誘致に参加。地元観光公社や市役所なども巻き込み、集落全体の「観光力」を強化。現在は飯田・下伊那地域の数多くの農家が参加する取り組みとなり、8千~1万人の旅行客を受け入れるまでになっています。長野県下伊那地方事務所 [www.pref.nagano.lg.jp/xthou/simoina/seisaku/man/kigyoy.htm](http://www.pref.nagano.lg.jp/xthou/simoina/seisaku/man/kigyoy.htm)



**花卉の品種改良によるストーリー型マーケティングで成功**  
花壇苗を手がける花卉農家だった澤田農園オーナーは、絶滅危惧の植物「ハリツルマサキ」の突然変異種に赤いハート型の実がなることを知り、10年以上をかけて品種改良を行ないました。完成した新品種は「ハートツリー」のネーミングで世に出、誕生日やバレンタインデー、母の日のギフト商品として大ヒット。現在、インターネット販売を中心に、育て方パンフレットやギフト包装、メッセージカードなどのサービスを加え、物語性のあるアグリ・マーケティングとして各分野から高い評価を得ています。



<http://www.sawadafarm.com/>

## 6次産業化について。もっと知ろう、相談しよう。

6次産業化の推進については、地方農政局などが総合的な相談窓口を設けています。質問のある人、アドバイスを受けたい人はこの窓口まで。各都道府県の6次産業化サポートセンターも紹介してもらえます。

窓口担当部署	所在地	電話番号/HPアドレス	担当する都道府県
北海道農政事務所 農政推進部経営・事業支援課	〒060-0004 北海道札幌市中央区 北4条西17丁目19-6	☎011-642-5485 <a href="http://www.maff.go.jp/hokkaido/network">www.maff.go.jp/hokkaido/network</a>	北海道
東北農政局 経営・事業支援部事業戦略課	〒980-0014 宮城県仙台市青葉区 本町3丁目3番1号 仙台合同庁舎	☎022-221-6146 <a href="http://www.maff.go.jp/tohoku">www.maff.go.jp/tohoku</a>	青森県、岩手県、宮城県、 秋田県、山形県、福島県
関東農政局 経営・事業支援部事業戦略課	〒330-9722 埼玉県さいたま市中央区 新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館	☎048-740-5341 <a href="http://www.maff.go.jp/kanto">www.maff.go.jp/kanto</a>	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、 東京都、神奈川県、山梨県、長野県、静岡県
北陸農政局 経営・事業支援部事業戦略課	〒920-8566 石川県金沢市広坂2丁目2番60号 金沢広坂合同庁舎	☎076-232-4233 <a href="http://www.maff.go.jp/hokuriku">www.maff.go.jp/hokuriku</a>	新潟県、富山県、石川県、福井県
東海農政局 経営・事業支援部事業戦略課	〒460-8516 愛知県名古屋市中区三の丸 1丁目2番2号 農林総合庁舎1号館	☎052-746-1215 <a href="http://www.maff.go.jp/tokai">www.maff.go.jp/tokai</a>	岐阜県、愛知県、三重県
近畿農政局 経営・事業支援部事業戦略課	〒602-8054 京都府京都市上京区西洞院通 下長者町下ル丁子風呂町	☎075-414-9024 <a href="http://www.maff.go.jp/kinki">www.maff.go.jp/kinki</a>	滋賀県、京都府、大阪府、 兵庫県、奈良県、和歌山県
中国四国農政局 経営・事業支援部事業戦略課	〒700-8532 岡山県岡山市北区下石井 1丁目4番1号 岡山第2合同庁舎	☎086-224-9415 <a href="http://www.maff.go.jp/chushi">www.maff.go.jp/chushi</a>	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州農政局 経営・事業支援部事業戦略課	〒860-8527 熊本県熊本市春日2丁目10番1号 熊本地方合同庁舎	☎096-211-9319 <a href="http://www.maff.go.jp/kyusyu">www.maff.go.jp/kyusyu</a>	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、 宮崎県、鹿児島県
沖縄総合事務局 農林水産部食品・環境課	〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち 2丁目1番1号那覇第2地方合同庁舎2号館	☎098-866-1673 <a href="http://www.ogb.go.jp/nousui/index.html">www.ogb.go.jp/nousui/index.html</a>	沖縄県

このコーナーの情報は、平成24年3月現在のものです。



枚方市農園 杉・五兵衛を訪ねる

# 風景、作物、料理、動物たち すべてが繋がって、6次産業化です

大阪府枚方市の郊外。「杉・五兵衛」と名づけられた広い農園で農業を営みながら、レストラン経営を続けている人がある。野島五兵衛さん。園内の農作物を料理・提供する食農型ビジネスを40年前に始めた、「6次産業化」の先駆的人物。循環型有機農法と食農文化伝承の実践者でもある。ご自身のこれまでに重ねて、新しい時代の農のビジネスモデルについて語っていただいた。



杉・五兵衛オーナー  
野島五兵衛さん  
戦国時代から数百年続く農園で「農と食」の事業を営む。日本農業法人協会副会長・政策委員長。

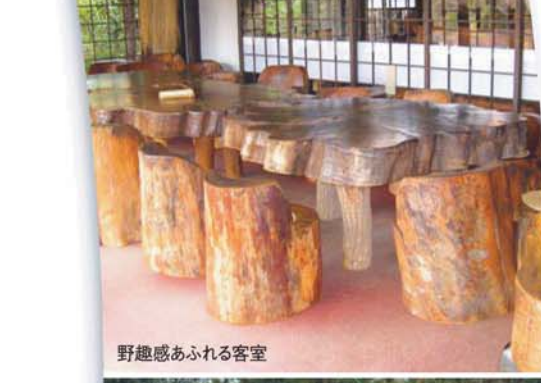
作物を正當に売るために、味噌も、醤油も使うんや。

杉・五兵衛オーナー野島五兵衛さんは、自らを専業農家と言いつける。老舗グルメ雑誌やテレビ番組でも頻りに取り上げられた元祖・農園レストラン。部屋数18室、収容人数200人の大型飲食店を営む野島さんが「俺は農耕だけで食ってるんや」と笑う。その理由をたずねると――。

「昔、国はこのレストランの収入を農業収入とは認めなかったんです。そこで俺はこう言いました。自分はこの農場で作った野菜を



素朴で美味な農園会席



野趣あふれる客室



ロバは有機循環農業の主役だ

正當な値段で買ってもらうために、昆布やら醤油を使う。ちよつとしゃれた器に載せてお客さんに出すこともある。つまり、農業の「環」としての加工・販売なんや。農家が作物を売るために使うダンボール代や運送費が経費になるのやったら、うちの昆布や醤油代もおんなじでしょ」と

野島さんのこの主張を、国は認めざるを得なかった。

それはかなりではない。のちに、「ここで実践されていることが、理想の農業」とまで認めたのである。

さまざま農の可能性が息づく、野島さんの農園。

国をして「理想の農業」と言わしめた、野島流の農のスタイルとは、どんなものなのか？

レストランを囲んで広がる野島さんの農園には、野菜畑がある。水田がある。プロウ園とイチゴハウスがあり、山菜やタケノコが生える林がある。春には梅や桜が咲き、秋

返つて来た答えは「……ここにつくしが2本あるとする。これが何千本も収穫すれば市場の競りに出してまともな値がつくけど、たった2本では値もつきませんや。そこで俺やたら、この2本のつくしを押し寿司にする。つくしの横に咲いた菜の花も添えてやる。そうしたら、春の風情や、ええなあ、と買ってくれる人が出る。つくし2本に正當な値段がつく。そういうことと違いますか」

日本の農業は長い間、生産者と消費者が切り離されて来た。農業の生産の場にある自然、四季、日本情緒という価値ごと、農作物を加工・販売する。野島さんはそのようにして6次産業化を先駆けて来た。その言葉が生まれる40年以上も前から、である。そんな立場から見ると、「6次産業化」という概念そのものに、新たな解釈を加えたい、と言う。

「6次化の6は1x2x3というけど……6の中には、4次・5次産業、つまり教育や情操、福祉やなんかが入ってる。俺は、実はこっちのほうが大事やと思います」

それは、命・環境・食といった農業にまつわる文化や精神性を、子どもや若い世代へ伝えることだ。杉・五兵衛の農園内で子どもやファミリーを集めて行なう体験農園ツアーや楽農まつりは、そんな野島さんにとって、現在、最も重要な「6次産業化」領域である。

また、この農園では30人近い若者たちが働いている。植物・土・動物の連鎖が作る有機農法と豊かな食文化を実践的に学ぶ彼らの姿は、野島さんにとって「6次産業化」の結実といえる。

「数で勝負しても、よそにもっと大きいヤツがおる。値段で打って出ても、おんなじ。しかし、心の豊かさは比較できへん。そこに価値をつけていくことが、遠回りかもしれないが、一番大事な6次産業化と違うやろか」

「その頃は、農家は一つの基幹作物を効率よく生産すべし、というのが国の政策だった。うちのこの農場もほとんどが芋と大根の畑。そこで効率よく同じ野菜を作れば安泰というわけです。けど、10年、20年先は、確実によその大型生産地と闘うことになる。さらにその先は、海外と競り合う時代が確実に来る。効率生産の量と価格で、北海道やオーストラリアに勝てるわけがない。俺はそう予測してました」

当時この考えを理解する人はほとんどいなかった。人新しい道を模索するうちに、野島さんは「農」とは何かという根源的な疑問にぶち当たった。お腹を満たすものを作るだけ

「6次化の6は1x2x3というけど……6の中には、4次・5次産業、つまり教育や情操、福祉やなんかが入ってる。俺は、実はこっちのほうが大事やと思います」



京の造り酒屋の酒蔵を移築したレストラン



園内の有機作物の加工品が店内に並ぶ



実をつけたサクランボ



田舎裏のある客室

**野菜のへたなど**  
畑の雑草や野菜の残渣がロバのエサに。

**堆肥**  
ロバの糞を微生物の力を借りて発酵させ堆肥化。

**世話**  
自家製の堆肥とばかし肥料だけで野菜を育成。

**収穫加工**  
地下水を利用して野菜本来の味を活かす料理を手作り。

**農園 杉・五兵衛 有機循環農業の輪**

# 我が国の食と農林漁業の再生のための 基本方針・行動計画

昨年10月、政府は、持続可能な力強い農業育成のためのこれまでの検討を踏まえて「我が国の食と農林漁業の再生のための基本方針・行動計画」をまとめた。農林水産省では、平成22年に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」に基づく食糧自給率の50%達成等を目指すにあたり、今回の基本方針・行動計画に沿って施策を実施していく。

## 戦略① 持続可能な力強い農業の実現

- 新規就農を増やし、将来の日本農業を支える人材を確保する
- 平地で20~30haの土地利用型農業を目指す

### 1 人・農地プラン(地域農業マスタープラン)の策定

◆徹底した話し合いを通じ、今後2年間程度で、人と農地の問題を抱えるすべての市町村、集落で人・農地プラン(地域農業マスタープラン)を策定  
【4次補正:2億円、24予算:7億円】

### 2 新規就農の増大

◆青年の就農意欲の喚起と就農後の定着を図るための給付金の給付等

#### 当面の施策等

○就農前後の青年就農者に対する給付金の給付、法人雇用就農の促進、就農希望者や経営発展を目指す農業者への農業経営者教育の強化【4次補正:23億円、24予算:136億円】

青年新規就農者を倍増(毎年約2万人)

### 3 農地集積の推進

◆戸別所得補償制度により、農地の受け手となりうる多様な経営体(個人、法人を含めた販売農家と集落営農)について、幅広く経営安定を図った上で、規模拡大加算や農地集積協力金の交付等により農地集積を加速化

#### 当面の施策等

○戸別所得補償制度の適切な推進【24予算:6,901億円】  
○集落での話し合いにより、今後の地域の中心となる経営体を定め、そこへの農地集積や、分散した農地の連坦化に協力する者への協力金を交付【24予算:65億円】  
○けい畔除去等による区画拡大を含め、ほ場の大区画化を推進【4次補正:801億円、24予算:220億円】

5年後に、目標規模の経営体が  
耕地面積の大宗(8割程度)に

【】…4次補正:23年度4次補正 24予算:24年度予算



## 戦略② 6次産業化・成長産業化、流通効率化

### 1 6次産業化の推進

◆「農林漁業成長産業化ファンド」の創設、6次産業化の先進・民間の専門家(ボランティア・プランナー、6次産業化プランナー等)を活用した農林漁業者等の経営を改革

5年後に、6次産業の市場規模を  
3兆円、10年後に、10兆円に

### 2 輸出戦略の立て直し

◆原発事故の影響への対応、国家戦略的マーケティング等を通じ、輸出戦略の立て直し

平成32年までに、農林水産物・食品の輸出額を1兆円水準に

### 3 日本農業の持ち味の再構築

◆環境保全型農業、農業生産工程管理(GAP)、危害分析・重要管理点(HACCP)などの取組の拡大等

「美味しい」「安全」「環境に優しい」といった持ち味を再構築

## 戦略③ エネルギー生産への農山漁村の資源の活用促進

◆地域主導で再生可能エネルギーの供給を促進するため、農林地の所有権移転等の促進や土地利用手続の簡素化等を図る制度の検討  
◆自立・分散型エネルギーシステム形成に向けた取組

# 農林漁業再生のための7つの戦略

# YANMAR NEWS



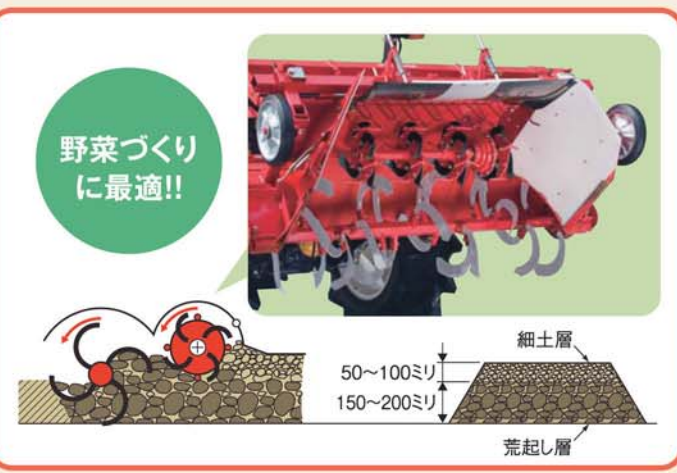
## 水田裏作・転作畑の野菜づくりに最適! 湿害防止と省力化が実証試験で明らかに。 ヤンマー二軸整形ロータリ(表層細土整形ロータリ)



**表層は細土、下層は荒起し  
うね立て・マルチ・播種  
まで二行程で**

平成16年以降、野菜の産出額は米を上回り、水田裏作や水田転換畑での野菜栽培が増え続けている。しかし、水田活用で高品質・収量の安定した野菜生産を目指すには、排水性が良く適度な保水性を有した土壌構造にするなど野菜栽培に適した土づくりやうねづくりが重要になってくる。

そうした課題を解決するためにヤンマーが開発したのが「二軸整形ロータリ」(表層細土整形ロータリ)だ。耕うん軸と砕土軸の2つを有することによって表層の土は細かく砕き、下層は粗い土塊に耕す(図参照)。その結果、排水性と土壌構造が改善されて苗の活着や根の伸長に良い影響を及ぼす。また能率面でも、耕うんしながら同時にうね立てやマルチ、さらに播種まで二行程で行うことができるため、作業時



間や労力の大幅低減も実現でき、大きな期待が寄せられている。

すでに実用化されているが、さらなる技術の確立と普及に向けて、新稲作研究会(事務局:財団法人農業技術協会)では全国で実証試験を行っている。異なる野菜を使って、二軸整形ロータリによる排水性の改善効果や土壌粒子との関係、作物の生育・品質・収量、経営面の効果などを調査。その内の3ヶ所(徳島・ホウレンソウとプロッコリー、秋田・エダマメ、滋賀・カボチャ)から中間結果を持ち寄って関係者が討議する検討会が昨年12月9日、JA徳島会館で開催された。いずれの実証試験でも二軸整形ロータリならではの効果が明らかにされ、高品質な野菜の省力安定生産技術として普及が期待できる。その概要をレポートする。なお、徳島では特産の「なると金時」栽培の省力化で最も求められている挿苗作業の機械化(ヤンマーかんしょ挿苗機)の試験も行われたので、併せて紹介する。

### 中間試験結果発表 実証された成果の数々

#### 徳島 ホウレンソウ・プロッコリー

**湿害による黄化症対策に効果大、  
生育不良も回避**



佐藤佳宏 専門研究員兼科長

小川仁 主任

水田裏作野菜の主要品目・ホウレンソウは秋冬期の長雨や大雨による湿害で黄化症が発生し品質低下や収量減少を招きやすい。しかし二軸整形ロータリは排水性がよく土壌が乾燥気

### 現地試験ほ場を視察 技術の成果を実感

以上の試験結果報告を受けて検討会では活発に質疑応答や討論、意見交換が行われた。ヤンマー(株)からも丸山高史・関連商品推進部長が開発の狙いと特長を説明し、「他の作物でも対応できるような研究・開発を重ね、様々な条件の水田裏作や転換畑で安定した野菜作りができるよう貢献していきたい」と述べた。最後にヤンマー(株)中根康有専務が「当社はお客様の問題に対応しそれをクリアする技術や栽培方法を提案してまいります。農家や地域の課題をどんどん寄せていただきたい」と呼びかけ、中間検討会の幕を下ろした。

午後からは現地ほ場の視察に移り、ホウレンソウの実証試験の模様とヤンマーかんしょ挿苗機の実演を見学。参加者はホウレンソウの生育ぶりを観察し「うねがきれい」「葉色がよく草丈もちょうどいい」「灌水の有無でも大きな違いが出ている」と感想



かんしょ挿苗機の実演

### 関係者コメント

近年、水田を利用した野菜作が増えており、排水性改善や省力化効果が期待できるこの技術に取り組んだ。活発な意見を交換し実り多い会議にして、技術の確立や普及につなげよう。

(財)農業技術協会 吉村正機 副会長

管内は中山間地に水田が多い。そこに土地利用型作物を導入するのも大事だが、中国四国地域の農業の推進エンジンは野菜だ。この新技術は野菜栽培の諸問題を解決してくれると期待している。

農林水産省中国四国農政局 川口尚生 生産部長

味で、黄化症も出ず収量も多かった。また水田裏作のプロッコリーは稲収穫後に耕うんしたあとうねを整形すると湿害で生育不良になりやすいが、事前に耕うんせず二軸整形ロータリで発細土整形うね立てすると、根域から水が排出されやすくなるため障害を回避できることがわかった。刈株が残る状態でもうねが立つのか心配したが、きれいにできて驚いた。作業の効率性や経営面でも利点が多い。

**秋田 エダマメ**  
**同時マルチ作業で初期生育が  
良くなり、早期安定出荷も可能に**  
秋田県農林水産技術センター / 農業試験場



齋藤雅恵 研究員

日本一のエダマメ産地を目指し早期から安定的に出荷できる播種技術の開発に取り組んでおり、二軸整形ロータリを使った耕起・うね立て・マルチ・播種の同時作業を試験した。通常のロータリより表層の砕土率が高く、播種時の覆土状態もよくなったため、出芽率が高くなったと思われる。さらにマルチと組み合わせた試験区では出芽後の生育も旺盛で収量も一番多かった。それらの結果から、この栽培様式はエダマメの初期生育改善に有効であると考えられる。同時作業による高効率化や労働力軽減にも効果がある。

**滋賀 カボチャ**  
**土壌水分が低いほど移植精度や  
生育が良好。規模拡大も期待**  
滋賀県農業技術振興センター

り回転速度を変えて、耕うん・うね立て精度に及ぼす影響を調査した。土壌含水率が18〜20%程度の場合、慣行より二軸整形ロータリの方が上層の砕土率が優れ、土壌水分が低いほど根鉢全体に土がかぶり移植精度が上がった。また、葉の大きさや蔓も長く育ち、果重も重く、大玉割合が高くなった。作業時間も短縮でき、作付け拡大が期待できる。そのため、二軸整形ロータリを用いた耕うん同時うね立て作業は、省力技術体系の1つとして有望と言える。



福永泰也 氏

**徳島 サツマイモ**  
**作業時間と労力が  
低減でき品質も向上。  
規模拡大に大きな期待**  
徳島県立農林水産総合技術支援センター / 農業研究所



林博昭 専門研究員兼科長

「なると金時」の栽培では挿苗作業は手で行われており、規模拡大を目指すには機械化による省力化が課題になっている。そこでヤンマーかんしょ挿苗機を使って省力効果や最適な栽植密度の検討を行った。欠株がほとんどなく植え付け精度は高レベル。重要なのは売れるイモがとれるのだが、株間42cmが最も収量が多く、特にS〜2Lは手植えより16%の増収となり収益向上も期待できる。品質差が生じるのは土壌水分が大きな原因で、機械植えの方が降雨後も土が乾きやすいため好結果が出たのだろう。能率も手植えの3倍で、大規模化を目指す農家にとって適用性が高い技術だ。





経営規模：米40ha、トマト50a、冬野菜(ホウレンソウ、ミズナ、コマツナ、チンゲンサイ)15a、他に作業受託(米の収穫と乾燥調整)、飼料生産

### 青森市でトップクラスの個人経営規模!

## 米と野菜を組み合わせ、低農薬にこだわって

## 収益性の高い大規模複合経営を確立

**消費者が喜ぶ作物を作る  
この信念にこだわりつづける**

米(40ha)・トマト(50a)、冬の寒締め野菜(15a)の他にも、大柳農園はいろいろな仕事を手掛けている。作業受託はかなりの面積を受けているし、転作田には牧草を植えサイレージを作って稲わらと一緒に畜産農家に販売している。これだ

**特別栽培米を直売販売ルートも多様化**

メインの米(品種は「つがるロマン」)も、県の認証を受けた低農薬米の他、さらに味と品質にこだわった特別栽培米を契約栽培し、米穀業者だけでなく前述のトマトや冬野菜と同様、青森市内の生協やレストランなど多様な販売ルートに直売している。作付けしている40haのうち45haでは、仕事の平準化や作業時期の分散、省力・低コスト化を目的に乾田直播を実施。  
「乾田直播は、湛水直播と比べて播種期間が長いし、カルパーコーティングも不要なので、規模拡大やトマトを組み入れた複合経営が成立しやすいと思います。ここは温暖で湿度が高いし、直播機の精度も高いので、生育は良好だし収量も移植と変わりません。雑草対策も効果の高い除草剤があります。異常気象に対しては、例えば播種時期に大雨が予想される時には播く日を早めるなど適切な対策を講じて乗り切ります。管内では湛水直播が主流ですが、うちの成果を見て乾田直播の面積もこれから増えてくると思いますよ」

**低農薬のトマトと冬野菜でハウスを周年利用**

八甲田山をのぞむ青森市は、この冬、大雪に見舞われた。山も川も田畑も見渡す限り白一色の中、大柳農園では大きなパイプハウスの中で、ご主人の大柳壽憲さんと奥さまの生子さんが寒締め



大柳壽憲さん。何事にも几帳面な性格もあって、作物の栽培管理にも余念がない



寒締め縮みホウレンソウの出荷準備をする奥さまの生子さん



ご子息の大柳壽秀さんご一家

**平成23年度功績者として  
大日本農会からも表彰**

28歳で父親をなくし大柳農園を引き継いだ大柳さんは、37年にわたって機械

けの大規模な営農は、個人経営では大柳さんが市内でナンバーワンだ。どんなに面積が増えて忙しくなっても、昔から低農薬や味・品質にこだわってきたのは、「消費者が喜ぶ作物を作りたい」という信念から。エコファーマーや県の低農薬認証を受けたのもそのためだ。また、研究会や講習会、新技術の実証試験などにも積極的に参加し、栽培技術を磨き、市場のニーズが分かる情報を集めている。もちろん日々の作業はご夫妻とご子息の壽秀さん(36歳)の家族3人だけではこなせないで、アルバイトを雇っている。地域の人を優先して雇用するのは、「働く場を提供することで楽しみや生きがいを持つてほしい」という思いからだ。



こだわりのトマトと冬野菜を栽培する大型ハウス。幅10m、奥行き80m、高さ6mと、高く大きいだけでなく、パイプが太くて12mごとに補強パイプが入っている。屋根の角度なども雪が滑りやすい設計で、今年2月の積雪1.3mにもびくともしない



大型ハウスの中で出荷を待つ寒締め縮みホウレンソウ

縮みホウレンソウの収穫・出荷に追われていた。

「経営の柱は米で、40ha作っています。それと比べると冬の葉物野菜(ホウレンソウ、ミズナなど)の寒締め栽培は全部で15aと少ないですが、冬季の貴重な収入源になります。寒締め栽培とは、収穫間近の作物を気温が5度位まで



「大日本農会」総裁・桂宮宜仁親王殿下からいただいた緑白綬有功章と賞状

化しながら規模拡大と経営の安定化に努め、今日の大規模複合経営を確立した。その傍ら、農業委員を務めたり農業経営士の資格を活かし、地域のリーダーとして栽培技術のレベルアップや農業後継者の指導・育成に尽力してきた。単に経営規模の大きさだけでなく低農薬栽培へのこだわりや消費者ニーズへの対応、販路拡大にも取り組み、さらに地域農業に貢献してきたことが評価され、日本で最も歴史のある全国的な農業団体「大日本農会」から昨年11月、大

柳さんに「緑白綬有功章」が贈られたのである。

先ごろ大柳さんは経営権を壽秀さんに移譲した。「息子はやる気満々です。今年は米を10ha増やす予定なので、50haを突破します。県の認証野菜の生産にもより一層熱心に取り組んでいます。一人で頑張っても限界があるから、自ら手本になるようないい仕事をして、将来右腕になる人を育てる。それが彼の課題ですね」そう語る大柳さんの瞳の奥には後継者への信頼と期待が溢れていた。



寒さにあて、葉が縮んだ寒締め縮みホウレンソウ。緑が濃く肉厚の葉が甘みを増し、エグミもないから、サラダなど生でも食べられ、おいしい

下がった時にハウスの窓をわざと開けて寒さに当て、甘さと栄養価を高める栽培法です。作物は寒さに耐えるために自ら葉に糖分やビタミンをため込むという能力があるので、それを利用してものです。元々夏の間、このハウスでは、西日本産のトマトが「成り疲れ」して品薄になる後に出荷するトマト(品種は「桃太郎8」)を作っています。有機農法を採り入れ県の指定低農薬野菜の認証を受けたこだわりのトマトなので、綿密な施肥設計に従って有機肥料を施しますが、土の中に窒素分など前年の肥料が残っていたら肥効が狂い悪



除雪に大活躍のヤンマートラクタAF660

**FAN FAN YANMAR**  
これだけの経営をやっていくには機械整備もきちんとしていないといけません。農業機械はほとんどがヤンマーです。ガムになるまで使い切るのではなく、能率を上げるために定期的に変更しています。だから毎年、何かを1台ずつ購入していますね



経営規模：麦200ha、大豆200ha、大豆収穫250ha、米10ha、無人ヘリ防除1,100ha

## 転作を一手に請け負う若手農業者集団

# 機械力と機動力で効率的経営を展開

## 目指すは「日本一の営農集団！」

現在、メンバーは12名。それぞれ個人として出資しておりそれぞれに対して役員報酬が支払われるが、出役作業に対する報酬は個人では受け取らない。なぜなら、同社とは別にそれぞれ個別に実家の農業を継いで社長や幹部として20ha以上の大面積を営営しており、そちらが本業（以後、親会社と称す）。そのため、共同ファームで受注した仕事のために作業に出るときは、親会社から出向しオペレータとして派遣された形をとっているのだ。そのオペレータ料（親会社が所有する機械を持ち込むときは機械のリース料も）は、メンバー個人ではなく親会社に対して共同ファームから支払われる。また、麦・大豆専用の収穫機やクローラトラクタ、無人ヘリなど個人農家ではなかなか持てない大型機械は同社で導入するが、100馬力以下の汎用的な機械は各親会社から借り受けリース料を支払う。こうした形態をとることで同社は専属の人員を常駐で抱えることなく12

**みんなで大きくなれる  
新しい経営スタイル**

と連携した牛糞堆肥の投入に力を入れた結果、土が生き返り、作物の収量、品質が飛躍的に向上。請負面積の拡大や収益増加に繋がっていききました。失敗が成長への大きな糧になったのです」と今井代表は振り返る。その言葉通り、同社の経営は一気に伸び、設立3年目の平成13年に中日新聞主催の農業賞で見事、農林大臣賞を獲得。またその2年後には毎日新聞主催の農業賞で優秀賞を受賞し、参加者の前で取り組みについて講演した。

**12人のメンバーは  
平均年齢39歳**

「もつと早せえー」「よつしやー、いくぞ」「おー」

大きな声が飛び交い熱気がいっぱい。育苗ハウス。それぞれ今風のヘアースタイルで元氣溢れるイケメン達が、中継りレー方式で大量の苗箱を軽トラに積み込んでいく。あつという間に作業が終わると、ひと息入れることなく各自田植えを担当するほ場へと分かれて走る。

作業の速さとパワー、あうんの呼吸で動けるチームワークに目を見張り、「さすが若者軍団」と感心させられるこのグループは、滋賀県甲賀市水口町で地域の水田転作を一手に引き受ける農業生産法人（有）共同ファームだ。



今井代表



同社のロゴマーク

設立は14年前。同地域は昔から近江米の産地として知られるが、関西圏と中京圏を結ぶ交通の要衝という地の利から工場誘致やベッドタウン化が進み、兼業農家の割合が急増。そんな中、米や野菜、花などを大規模に生産する専業農家の後継者たちが結集。「1人では競争



何事もメンバー12人が全員で助け合って仕事をする結束力の高さが自慢

名の労働力がいつでも確保でき、機械投資も最小限で済むなど、効率的経営によるコスト低減が図れる。一方、親会社側もリスクの高い麦・大豆の栽培を経営から外すことで、メインの作物に専念し付加価値をつけることもできる。また、役員が自社の仕事から抜ける人的・時間的損失もオペレータ料として埋め合わせられる。

発足から14年で経営面積はスタート時の48haから麦200ha、大豆200ha、大豆収穫250ha、米10ha、無人ヘリ防除1,100haまで拡大。これらの作業のためにメンバーが出役する日数は、1人平均年間60日。5〜6日に1度の勘定だ。いかに仕事効率的に行われているかがわかるだろう。

**徹底した時間管理と  
作業効率の追求**

この効率的な仕事を実現させるため同社がこだわっているのが、徹底した

に勝てない。みんなで大きくなろう。そして親の農業とは違う新しい営農スタイルに挑戦し、地域の農業に貢献したい」という熱い想いを掲げ、平成10年、同社を立ち上げたのだ。その頃、同地域では高齢化や担い手不足、湿田が多いという土壌条件の問題などから、大半の農家は米



打ち合わせ中の今井代表と今井氏が社長を兼務する親会社の「(有)シオールファーム」会長・徳地好雄会長。中央はヤンマー農機販売(株)甲賀支店の竹村好司支店長

の生産調整で麦や大豆を作ることは消極的だった。転作専門の集落営農組織も早くから生まれていたが、将来、労働力不足などから運営に支障が出ることも懸念されていた。折しも生産調整がより一層強化された、米価も低迷。それに伴い同社ではこれからは転作は避けて通れない問題で、対応に困る農家が続出し、請負が大きなビジネスになると判断。そこで、スタート当初に取り組んでいた野菜作を外して、麦・大豆の栽培と作業請負を強化。助け合いの「結」の精神で近隣の小さな農家から集団組織まで幅広く転作のニーズを拾い、生産調整田での麦・大豆栽培の請負を積極的に受注していくことにした。

同時に組織体制を強化し、大型機を

時間管理と作業効率の追求だ。何も作業できない手持無沙汰の時間をなくし、1分単位の仕事の精度を上げる。時間のロスを極力減らし、限りある時間を最大限効率的に使う。

「1人が5分のロスをしても大して問題にはなりません、12人だと合計1時間。大きなロスになりコストに跳ね返ってきます。時間厳守も厳しくチェックし、1分の遅刻は1時間の減給にしています。だって効率的に仕事を早く終えて仲間や家族と遊ぶ方がいいでしょう」（今井代表）

トラクタに最初から1つの作業機を装着し専用機として使うのも、作業機の脱着に要する時間を削減するため。それらが功を奏して、例えば大豆の播種は50haを2日でやり終えた。小麦の総作業時間も10aあたり33時間と県平均（84時間）の2分の1以下を実現。まさに機械に使われるのではなく、存分に機械を使いこなしているのだ。



耕うん同時播種作業

普段から広くアンテナを張り、最新技術や機械を取り入れようとする意欲的な同社。その存在は国内だけでなく、あるヨーロッパの作業機メーカーの目にもとまり、開発担当者からアジアマーケット向けに開発中の商品に対して意見を

導入して装備の充実や栽培技術の向上に努めた。

### 組織体制



「元々メンバーの大半は前職が自動車修理業や調理師、サラリーマンなど様々な業界からの新規就農でした。だから経験が浅く技術も未熟だったうえ、異常気象や台風の被害にも見舞われて、最初に取り組んだ野菜作りは散々な結果に。でもその失敗によって本気で土壌や作物のことを勉強し、何とかして赤字を取り戻そうと経営意識も高まりました。特に痛感したのは土づくりの重要性。弾丸暗渠の設置やサブソイラ・プラウなどによる心土破碎・深耕、畜産農家



バーチカルハローでの碎土均平作業

求められたり、試作品のテストを頼まれたりだ。

「世界から注目される農業軍団になるのは遠い夢だけど、まずは我々のスタイルに賛同してくれる新しいメンバーを増やしていきたい、日本一の農業経営を目指します。当面は小麦パンなど6次産業化にも取り組んでいきたいですね」

夢いっぱいの彼らの挑戦はまだまだ続く。



小麦の収穫作業

### FAN FAN YANMAR

ヤンマーのクローラトラクタCT1000を導入して大満足のトラックに乗せられる最大の大きさが、湿田でもヨーロッパの重い作業機を難なく引っ張り、ランニングコストも安い。全国の若手農業者会議でも評判だったよ



経営規模: 人参8ha (裏作で枝豆と水稲)

### 人参の大規模栽培にチャレンジ!

## トンネル栽培でおいしく、キレイな人参を育てる 大型農機の導入で経営規模拡大に取り組む



トンネル栽培により3月から5月の出荷が可能に

### 規模拡大のモデルとして 地域から注目

もともと人参のトンネル栽培は昭和43年頃に徳島で初めて導入された農法だ。その頃、人参は東洋系の金時人参に代わり西洋人参の生産が拡大していた。主な産地は千葉や北海道だった。その出荷と重ならない時期に生産すれば産地化が可能になる。そのための方法としてトンネル栽培が導入されたのだ。「路地ものと違って雨や風を防げるので、ベストな状態で育てられます。だからおいしくできると」と祥輝さん。

協をしないこと。それはもう自分との闘いになりますね」  
祥輝さんは昨年結婚したばかり。「これからはもっと頑張つてやってくれたいと思います。まだ遊びたい時期で友達づきあいの方も忙しいけれど、品質のいい人参を作ってもらいたいですね」と昌士さんはエールを送る。

### ジュースで飲める フルーツのような人参

春、徳島の人参農家は収穫期を迎えて大忙し。3月から5月まで忙しきは続くことになる。徳島は全国有数の人参産地。この時期の「春夏人参」は徳島産が全国で6割を占め、岩手から広島までの広い地域に出荷されている。  
徳島産人参の特色は、トンネル栽培で育てられているため糖度が高く、甘くておいしいこと。収穫して3日ほどはエグ味も無いので、そのままジュースにして飲めるほどだ。岡本さんを取材した時にいただいた人参を生で食べてみると、フルーツのように甘く「これが人参?」と思えるほどだった。



現在は大規模栽培に取り組む昌士さんだが20年ほど前に栽培を始めた頃は、70aと小規模だった。木材会社に勤務し

EF895、EG83、EG775と大型トラクタを揃え機械化を図っている。岡本昌士さん(左)と息子さんの祥輝さん



温度上昇を防ぐため専用のカッターでフィルムに穴を開ける

するために経費も手間も余計にかかり、温度管理も難しい。人参が育つ最適温度は25℃で、30℃を超えると作柄が悪くなる。だから冬から春にかけての暖かくなる時期に温度上昇を防ぐために、フィルムに穴を開けなければならぬ。しかも気温の上昇に従って穴を増やしたり、大きくしたりしていく。そして大敵が強い風だ。「フィルムが飛ばされることもあるんです。そうならないように、うちでは特にフィルムに土を多くかけるようにしています」と祥輝さん。  
生育のポイントになる土作りは前年の8月頃に始まり、その時に大型トラクタが活躍する。この地域の土地は粘土質で硬いため、それを細土してやわらかくしなければならぬ。その作業は力の強い大型トラクタが適している。「大型だと作業が速くはかどります。台数も多く揃えているので1台当たりの負担が減り、故障も起こりにくくなるんです。その分長く使えるでしょうね」と昌士さん。  
ふかふかの柔らかい土地ができると、次は肥料を入れる作業だが、畜産農家から供給される堆肥をメインに利用している。10a当たり1トンほどで、やせた土地には2トンほどに増やす。ただ堆肥だけでは不足する養分があるので、化学肥料で補っている。割合は堆肥10に対して化学肥料1とほとんどが堆肥だ。



岡本さんの農機はヤンマー農機販売(株)板野支店の寿見昭人さん(右)がしっかりサポート



岡本昌士さん(背後)の指導のもとで、一人前の人参農家を目指す若手のホープ3人。左から岡本祥輝さん、日下祐作さん、佐藤映治さん。

ながら兼業で続けていたが、8年前に息子さんの祥輝さんが専業で始めることに。「小さい頃、父が畑で作業をするのをよく手伝っていました。土から作物を掘り出したりするのが楽しく農業をやりたいと思うようになったんです」と祥輝さん。だが、自家の農地だけでは専業は難しい。安定した収入を得るために土地を借りて規模拡大を図ってきたのだ。

働き手も、昌士さんと奥さんの清子さん、祥輝さんだけでなく、娘さんのご主人の日下祐作さん、さらに清子さんの甥の佐藤映治さんも加わることに。それに伴い、栽培面積もここ5〜6年は毎年



トンネルは人の背丈より低く内部は狭いので、ふだん行方作業の環境は厳しい



最上段の「M」サイズが最高値で売れるのでそれを目標に丹精を込める

地域では、以前はもっぱら化学肥料を使っていた。堆肥の使用は岡本さんともう1戸の農家だけが10数年前に始めた。すると収穫量が以前より2〜4割も増え色つやも良くなったため、堆肥の使用

が産地全体に広がったという。「ふつうは面積を増やすと単収が落ちるんですが、堆肥を使ってみると逆に増えました。結果的に堆肥を使った事が良かったのでしょう」と昌士さん。

この例のように、地域では各農家が新しく始めたやり方をオープンにして、地域全体で技術を高め、生産を盛り上げようという気風があるため、全農家が高い品質を維持しようという団結力が強くなるのだ。

最近の目立つ動きは経営規模の拡大で、岡本さんがその先頭に立っている。その動きに刺激され、栄支所管内で栽培面積が毎年10haほど増えているというか



収穫前に人参収穫機を念入りに点検

父の指導の下で学ぶことも多い一方、課題はむしろ内面的なものだという。「技術的なことはやっていけば身につきますが、気持ちの面はまだ甘くなりがちです。ちよつと手を抜くだけで出来が悪くなるんです。気持ちの持ち方ではまだまだオヤジのレベルには至っていないです。大切なのはとにかく自然を相手に妥

ら岡本さんは規模拡大のモデル的な存在と言えるのだ。「規模を拡大すると仕事が大雑把になる恐れがあります。そうならないように品質のいいものを育てていかなければなりません」と昌士さん。品質を維持するために、温度調整に力を注ぐとともに青首にならないように土寄せをしつかりやるよう努めているという。



今年も作柄が良く喜びいっぱいの岡本さん親子

**FAN FAN YANMAR**  
ヤンマーとは長い付き合いなので安心です。農繁期の修理にも迅速に対応してくれるので助かっています。昨年はヤンマーから出たフレコン対応の収穫機を導入。おかげで作業がラクになりました。



ヤンマーコンバインGC695

る。中でも壮観なのは140haに及ぶ米と麦の収穫作業。4〜5台のコンバインが一斉に稼働し、1日4〜75haのペースで一気に刈り取っていく。その様は実にダイナミックだ。作業の効率が高いからその分、作業受託料を2割方抑えられるので、委託者から喜ばれている。繁忙期には機械が順調に動いているか気になって現場を見回るJA全農ふくれん・広域農機センターの森光孝地区長は、「ヤンマーの機械はトラブルがない



格納庫にはヤンマーコンバインがズラリ。

特別栽培米づくりへの取り組みは組合立ち上げと同時に開始された。

地域に密着することで付加価値を高めた特別栽培米を生産・販売



事務を担当する中垣節子さん。みんなのマンナで、収穫作業のほ場に3時のお茶を持って行くという心配りが喜ばれている。「現場にはいつも笑いがあります。夏にはアイスクリームを届けることもよくありますよ。それを15人分溶けないようもっていくのは大変ですが、『生き返った!』と喜ばれれば汗が吹っ飛びます。いい仕事してもらえれば、嬉しいですよ」

し、オペレータも腕がいいので安心です。コンバイン7台を全部ヤンマーに揃えておられるのも、メンテナンスなどがやりやすいですね」と話す。  
「皆で協力しながら楽しく作業しています。連帯感とチームワークがうちの自慢です。オペレータも独自のマニュアルで教育されているので、誰が運転しても作業の質は均一で高精度。何しろ作物づくりの工程の中で収穫作業は最後の仕上げですからね。作業効率だけを追求するのではなく、細かいことにも手を抜かず1粒でも多く収量を確保してあげるのが、作業受託組合である私達の使命です。収穫時期に入ると私は毎朝、ここで現場に出ていく皆を見送るのですが、同じカラーで同じヤンマーのコンバインが列をなして出ていくのを見ると、「うちの組合は大丈夫だ、生き残っている」と実感します」と胸を張る吉田さん。



3役、オペレータの班長、事務

「大豆生産に適さないほ場を使い、近くの畜産農家から稲ワラと交換に牛糞の堆肥を貰い、他の有機質肥料と一緒にほ場に散布しています。久留米でとれた減農薬・減化学肥料の安全で美味しい米を地元の皆さんに食べて貰いたいと思い、『ほとめき(おもてなしの意)』の名を付けて市内だけで販売しています。地域に密着し付加価値を高めた特別栽培米の生産・販売によって組合員にとっては所得が増え、品質に対する意識が高まりますし、イベントや道の駅でPRすることで消費者には資源循環型農業への理解も深めてもらえます。現在、作付けは30haですが、増やしていきたいですね」  
「そのためには新たにオペレータの確



特別栽培米「ほとめき」の米袋

保・育成もやらなきゃなりません。今後、組合の役割はますます重要になってくるでしょう。課題は多く責任は大きいけれど、やりがいも一層感じます」。鹿子島組合長の言葉に大きくうなずき合う皆さんだった。



コンバインの前で気勢を上げる皆さん

FAN FAN YANMAR

オペレータになって20年になりますが、ヤンマーのコンバインに乗るようになって、丸ハンドルだけでなく、旋回で小回りが利くなどヤンマーの良さが分かるようになってきました。



経営規模:米(特別栽培米)30ha、作業受託/田植え15ha、稲収穫80ha、麦収穫30ha、大豆収穫27ha、ソバ収穫3ha

農水省経営局長賞に輝いた集落営農のモデル

機械力とチームワークで効率化を追求し

180haを超える作業受託を展開



3役(組合長、副組合長2人、会計・経理)とオペレータの班長、事務の皆さん

全国で1万4000件を超えるといわれる集落営農。その中で2年前、地域農業の担い手として特に優秀だと「全国担い手育成総合支援協議会」から表彰された組合が、福岡県久留米市の「FarmZEN」だ。福岡県知事賞も受賞し、集落営農のモデルとしてお手本になっていると聞き、早速見学にうかがった。  
昨年3月に開業した九州新幹線・久留米駅から東へ約10km。筑後平野の中央、筑後川流域の肥沃な土地と温暖な気候に恵まれて米や麦、大豆、野菜栽培が盛んな善導寺地区の一角に、同組合の格納庫はあった。出迎えてくれたのは、



福岡県知事賞の表彰状



農水省経営局長賞の表彰状

15集落の200戸が結集  
一連の機械作業を受託

鹿子島1男組合長(64歳)をはじめ役員16人が、強いリーダーシップと和の精神で、地区の8割以上を占める約200戸の組合員を引っ張ってきた。実際の作業は、35人のオペレータの中にはコンバイン1台ごとに専属の班長がおり、その下に4人がついてチームを結成。各班長の陣頭指揮のもと7班編成で170haを超す米・麦・大豆の収穫作業を一手に担う。和気あいあいと楽しく作業を進める活動ぶりもさることながら、注目したいのは次の2つだ。1つは、これだけの面積の収穫作業を高性能な7台のヤンマーコンバインで対応する作業効率の高さ。そしてもう1つは、周辺に畜産農家が多いことからワラと交換した堆肥を用いて特別栽培米を作り、プライベートブランドとして販売するという



左から吉田副組合長、中垣さん、鹿子島組合長、藤原副組合長、香月・会計経理担当役員

背中に「FarmZEN」と書かれた揃いのブルゾンを着て、きびきび動く役員さんとオペレータの班長さん達。「組合名を英字にしたのは、若い人がグローバルな活躍を目指してほしいという願いを込めたからです」。笑顔で語る

機械の共同利用で  
生産コストを低減

同組合が設立されたのは平成18年11月。その2年前に国から「品目横断的経営安定対策」の概要が出されたことから、それへの対応と将来目指すべき方向性について集落で話し合いを重ねた。  
「その結果、個々人で機械を持つより、地区全体で営農組合を立ち上げて共同作業をすることで生産コストを下げよう、ということになったのです。設立してから1年半ほど経った頃、平成4年に作られ個人レベルで利用されている機械共同利用組合との兼ね合いが問題になりました。運営費が両方がかかり役員の出役も重複するなど、経営的にも労力的にも負担が大きかったからです。協議を重ねた結果、将来の法人化も見据えつつ、組織の強化とコスト削減を図るため、平成21年2月にそれらを統合しました」

ヤンマーコンバイン7台で  
大面積の収穫に対応

これまでに導入した機械は、ヤンマー自脱型コンバイン5台と大豆コンバイン2台を中心に、トラクター1台、乗用田植機2台、乗用管理機1台など。これらを駆使して収穫作業をメインに米、麦、大豆の一連の機械作業(耕起、代掻き、播種、田植え、中耕など)を請け負っている

NEW ヤンマーたまねぎ収穫機

HT20A 2条掘り



裸地

マルチうね

整列放出

●1畦4条植えを2条ずつ、往復で収穫。掘ったたまねぎは1列にキレイに並べていくため、後作業がスムーズです。

葉切りカッター

●葉切り高さが4~20cmに無段階調節できるため、青切り出荷・コンテナ貯蔵・結束吊り下げ貯蔵などの形態に対応できます。

パワートレッド

●パワートレッド機構の採用で、うね合わせが簡単にでき、軽トラに積込み可能。ほ場間移動もラクラクです。

マルチキット

●マルチキットを装着することで、マルチ栽培に対応。フィルムのすそをブレードで起こしながら、掘り取ったたまねぎを確実に掘り起こします。

■主要諸元

型式名	HT20A(L)	HT20A(L)MSFT2
区分	裸地	マルチ
機体寸法	全長(mm) 2030 全幅(mm) 1130[1085] 全高(mm) 258[262]	全長(mm) 1250(作業時:1450) 全幅(mm) 1220[1175] 全高(mm) 279[283]
エンジン	種類 空冷4サイクルガソリンエンジン 総排気量(L(cc)) 0.126[126] 定格出力/回転速度(kW(PSI)/rpm) 2.3(3.1)/1800(最大:3.0(4.1))	種類 マルチ 総排気量(L(cc)) 0.126[126] 定格出力/回転速度(kW(PSI)/rpm) 2.3(3.1)/1800(最大:3.0(4.1))
走行部	トレッド(mm) 1150~1350[1080~1280] 変速段数(段) 前進3・後進1 掘取条数(条) 2	トレッド(mm) 1150~1350[1080~1280] 変速段数(段) 前進3・後進1 掘取条数(条) 2
掘取部	条間(mm) 200~240 葉切り高さ調節範囲(mm) 40~200 適応うね高さ(mm) 150~300[50~150]	条間(mm) 200~240 葉切り高さ調節範囲(mm) 80~100(2段) 適応うね高さ(mm) 2.0~4.0
作業能率(計算値)(時/10a)	2.0~4.0	2.0~4.0

※[]は低うね仕様。

NEW ヤンマー歩行型たまねぎピッカー

HP90T



空コンテナの積載量が大きくアップ!

●空コンテナの積載量が42個になりました。これにより100m長のほ場での作業も1工程で行えます。

機械を停止せずに連続作業が可能。

●たまねぎを受けるコンテナは、満量になると1つずつうねの上に排出します。また、コンテナは連続供給ができます。

■主要諸元

型式名	HP90T
機体寸法	全長(mm) 2315(収納時:2155) 全幅(mm) 2270(収納時:1385) 全高(mm) 1585 機体質量(重量)(kg) 425
エンジン	種類 空冷4サイクルガソリンエンジン 定格出力/回転速度(kW(PSI)/rpm) 2.3(3.1)/1800 挿込幅(mm) 790 取替方式 コンテナ 作業能率(計算値)(時/10a) 2.5~3.0

NEW ヤンマー人參収穫機

HN100,F 高能率1条掘り

クラス最大0.84m/s  
最大22,000本/hの  
高速作業を実現!

※ほ場条件による



最大積載量が200kgのフレコン仕様。



フレコンバックの荷下りもラクラク!



収穫のタイミングを逃さない!



■主要諸元

型式名	HN100F
区分	フレコン仕様
機体寸法	全長(mm) 3515(作業時:3360) 全幅(mm) 1625(作業時:2140) 全高(mm) 1600 機体質量(重量)(kg) 980
エンジン	種類 水冷2気筒立形ディーゼル 総排気量(L(cc)) 0.569[569] 最大出力/回転速度(kW(PSI)/rpm) 8.8(12.0)/3000 葉長(mm) 250~800 入抄長さ・太さ(mm) 300以下・15~75 掘取条間(mm) 1条150以上
適応作物	人参
適応うね高さ(mm)	200以下
作業能率(本/h)	10,000~22,000
適応フレコンバック	ヤンマー純正フレコンバック(コードNo:1E3250-4890)

NEW ヤンマー全自動野菜移植機

PF1 1畦1条植え・往復2条植え

植付速度2段&広い株間選択範囲

●標準仕様では、最近の野菜の小球嗜好に対応できる狭い株間20cmにも対応。また、ロング株間キットも用意しています。

■株間範囲(cm)

植付速度(m/s)	PF1 (標準仕様)	PF1.L (長株間仕様)	林間31-68組替キット装着時(オプション)
1速(0.45m/s)	20~38	27~51	31~59
2速(0.52m/s)	23~45	31~60	36~68

樹脂製覆土ローラ

●軸部への土の入り込みを防ぐ、カバー樹脂製覆土ローラを採用。

植深さツインセンサ

●機体前方の鎮圧ローラ(フロントセンサ)により、うねの始まりから植付けができ、枕地での手作業が少なくなります。

レバー手元集中

●操作レバーが手元に集中。操作がラクに行えます。

S爪

●苗取り爪は、幅広のS爪を採用。高速作業でもしっかり苗をキャッチします。

近年、白菜などは若い苗(根張りが不十分)を植付ける傾向にあります。その場合は苗をブロックごと抜き取るフォーク爪(オプション)をご使用ください。



■主要諸元

型式名	PF1	
区分	標準・1畦1条	往復2条
機体寸法	全長(mm) 980 全幅(mm) 1160 全高(mm) 205	2165 1160 225
エンジン	種類 空冷4サイクルガソリンエンジン 総排気量(L(cc)) 0.098[98] 定格出力/回転速度(kW(PSI)/rpm) 1.6(2.2)/1800 最大出力(kW(PSI)) 2.2(3.0)	0.098[98] 1.6(2.2)/1800 2.2(3.0)
植付部	植付条数(条) 1 条間(mm) - 植付方式 開孔器	1(往復2) 100~700
作業能率(時/10a)	1.2~1.7	1.2~1.7
適応作物	キャベツ・はくさい・ブロッコリー・レタス	キャベツ・はくさい・ブロッコリー・レタス
適応トレイ	(農水省規格)250穴・200穴・30角128穴	(農水省規格)250穴・200穴・30角128穴

NEW ヤンマー乗用全自動野菜移植機

PF2R 1畦2条植え・1畦1条植え

乗用全自動2条植え

●歩行型全自動野菜移植機の約2倍の高能率作業が行えます。しかも乗用型なので作業者の疲労も大幅に軽減されます。  
●苗つぎ回数を少なくするため、野菜トレイは苗載せ台に4枚、予備苗台に12枚の合計16枚積載可能。  
●苗つぎのタイミングは警報ブザーで知らせてくれるため、空植えの心配がありません。

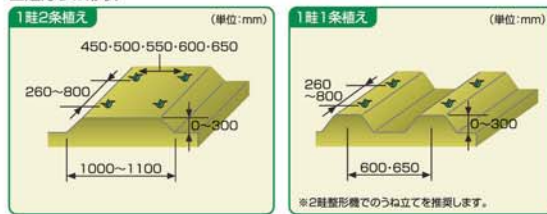
自動植深さ制御&植付部フローティング機構

●溝の凹凸やうね高さの変化のみならず、うね上面の小さな凹凸や左右で違う高さのうねにも追従できるため、精度の高い植深さ制御が可能です。

新ペダル変速“e-move”

●変速操作に気を取られることなく、運転に集中できます。しかも無段階変速で、ほ場に最適なスピードで作業ができます。  
●ペダルを操作すればクラッチ・ブレーキが連動して作動するため、苗つぎ時の煩雑な操作がありません。また、坂道でも安心して停止することができます。

■適応うね形状



■主要諸元

型式名	PF2R
機体寸法	全長(mm) 3160 全幅(mm) 1725 全高(mm) 1925 機体質量(重量)(kg) 615
エンジン	種類 空冷4サイクルガソリンエンジン 総排気量(L(cc)) 0.357[357] 定格出力/回転速度(kW(PSI)/rpm) 7.1(9.7)/3600 最大出力(kW(PSI)) 8.8(12.0)
走行部	トレッド 前輪(mm) 1200・1270 後輪(mm) 1200・1320 変速段数(段) 前進2・後進1(HMT)
作業能率(時/10a)	0.6~0.9
適応作物	キャベツ・はくさい・ブロッコリー
適応トレイ	(農水省規格)250穴・200穴・30角128穴

ヤンマー 新商品登場!

新開発された優れたもの

# 田植機 点検・診断



## ご使用前に点検・診断を

### Maintenance

ヤンマーの農業機械は、あなたの仕事のパートナー。いつまでもよき相棒として、安全にご利用いただくために、日頃の保守点検は欠かせません。このページを参考に、愛機をチェックしましょう。

- 【ご注意】**
- 各メンテナンスの要領は型式によって異なります。取扱説明書を参照してください。
  - その他、点検により不良箇所、または不安な箇所を見つかった場合は、お気軽に最寄りの販売店・JAにご連絡ください。

### 【田植え当日に慌てないために】

あなたもチェック!

- エンジンオイルの量や汚れ
- 燃料タンクのガソリン  
※昨年のガソリンが残っている場合は交換してください。
- エンジンが始動するか
- バッテリーの液量は適正か
- 植付クラッチや  
走行クラッチが作動するか

診断項目		予想されるトラブル	
エンジン部	エンジンオイル	量・汚れ	オイルの量が不足したり汚れると、エンジンの寿命を縮めエンジンが焼付く原因となります。
	燃料フィルタ	汚れ・詰まり	フィルタが詰まると、空気や燃料の供給量が不足しエンジン馬力が出なくなります。
	エアクリーナ	汚れ・詰まり	
	ベルト	張り・損傷	ベルトがゆるんだりすると、機械が動かなくなる原因になります。
	バッテリー	液量 ターミナルの腐食	バッテリーの性能が低下し、エンジンが始動できなくなります。
操作部	ステアリング	遊び量	
		遊び量	
	ブレーキ・アクセル・主クラッチペダル	左右 ブレーキの踏み代 作動具合	本機の向きの変更や停止ができず、事故の原因になります。
	植付昇降装置	作動具合 ガタ・異音	植付け深さが不良や欠株などが発生し、正常に植付けられない原因になります。
	水平制御装置	作動具合	
走行部	タイヤ	摩耗・損傷 空気圧	タイヤやホイールに無理がかかり、走行不能や事故の原因になります。
	車軸・ミッション	油漏れ オイル量	オイルが少なくなると、走行不能や油圧回路の作動不良の原因となります。
施肥機部	肥料繰り出し部	作動具合	正常に施肥できず、成育不良の原因になります。
	ホース・ジャバラ・ブーツ	詰まり・破損・変形	
植付部	植付爪	摩耗・変形	転び苗や浮き苗などが発生し、正常に植付けられない原因になります。
	プッシュロッド	ガタ	
	油圧感度ワイヤ	作動具合	
	苗台支持シュー	摩耗	苗載せ台がスムーズに横送りできなくなり、欠株等の原因となります。

## 田植機 点検のポイント

### 1 エンジン部

前回のオイル交換時期でも判断。フィルタ交換はオイル交換2回に1回。

**エンジンオイル**  
量…上限と下限の間にあること。  
汚れ

**燃料フィルタ**  
汚れ・詰まり  
 汚れや異物を確認すること。  
 燃料コックのカップ内を確認すること。

**エアクリーナ**  
汚れ・詰まり  
 フィルタの汚れや異物を確認すること。

**ベルト  
(ジェネレータ・主クラッチ・カウンター)**  
張り・損傷  
 基準値であること。ベルトに亀裂・底付き・偏摩耗がないこと。

**バッテリー**  
液量  
 上限と下限の間にあること。  
ターミナル  
 腐食や緩みを確認すること。

### 2 操作部

ワイヤやロッドの動きも合わせて確認すること。

**ステアリング**  
遊び量…基準値であること。

**ブレーキ・アクセル・主クラッチペダル**  
遊び量(クラッチ・ブレーキ)  
 基準値であること。  
左右ブレーキの踏み代  
 左右の効き深さが同じであること。  
作動具合…確実に作動すること。

### 5 植付部

外観の破損も同時に確認すること。

**植付爪**  
摩耗・曲り  
 プッシュロッドとのスキマに注意すること。

**プッシュロッド**  
ガタ  
 ロッドバックの劣化・破損も同時に確認すること。

**油圧感度ワイヤ**  
作動具合  
 センターフロートを手で持ち上げて、昇降を確認すること。

**苗台支持シュー**  
摩耗  
 グリスが塗布されているか確認すること。

### 4 施肥機部

**肥料繰り出し部**  
作動具合  
 各条の目皿ロールの作動具合を確認すること。

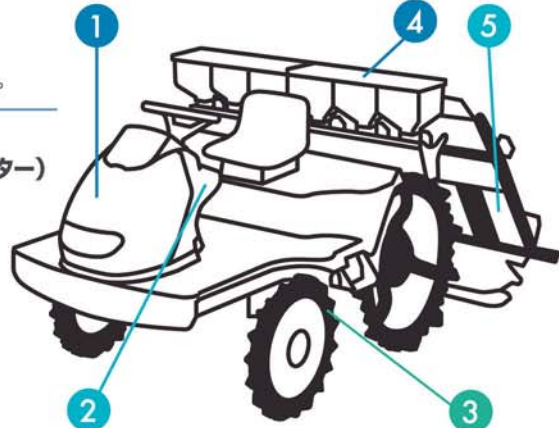
**ホース・ジャバラ・ブーツ**  
詰まり・破損・変形  
 プロア付き施肥機は、風力を作溝部で確認すること。

### 3 走行部

前回のオイル交換時期でも判断。フィルタ交換はオイル交換2回に1回。

**タイヤ**  
摩耗・亀裂  
 移動が多いと摩耗が早いので注意すること。  
空気圧  
 空気入りと空気無しがあるので注意すること。

**車軸・ミッション**  
油漏れ  
 地面に油漏れの跡が無いかも確認すること。  
オイル量  
 基準値であること。

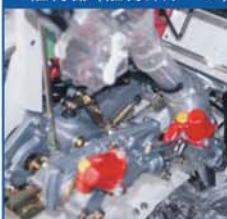


### 04 各部グリスアップ(注油)

※50時間または1年のどちらか早い時期に実施

- こんな箇所に
- 各操作レバー支点(注油)
  - パワーステアリング・ベルクランク支点部(グリスアップ)
  - トップリンク・ロアリンク支点部(注油)
  - 植付部(グリスアップ)
- ※グリスアップ箇所は型式によって異なります。取扱説明書を参照してください。

植付部(植付爪ケース)



グリスを多く入れ過ぎると、プッシュロッドの動きが悪くなり、植付不良が発生します。

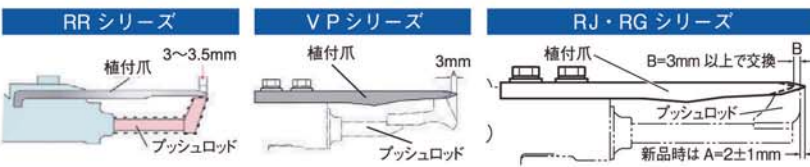
植付部(支持シュー)



### 03 植付爪

こんな時は交換または調整

- 植付爪が変形・摩耗している。爪先の3~3.5mmぐらいが減ったら交換時期です。



#### 点検のしかた

ロータケースを手動で回転させて、プッシュロッドが押し出された状態のときに、植付爪とプッシュロッドの先端の間隔を測り、規定寸法より摩耗している場合は交換してください。

#### 交換後の点検・調整

- ①プッシュロッドと植付爪のすき間
- ②苗取出板と植付爪のすき間
- ③縦取り量(爪セットゲージ使用)



※詳細は型式によって異なります。取扱説明書を参照してください。

### 02 プラグ(ガソリンエンジン搭載)

こんな時は清掃または交換

- エンジンのかかりが悪い。
- セルモーターは回るがエンジンがかからない。



- ①プラグキャップを取り外します。
- ②サイズに合ったプラグレンチでプラグを取り外します。
- ③プラグの電極部の状態を確認します。
  - カーボンが付着している  
→ワイヤブラシで、電極部の煤を取り除きます
  - 電極が摩耗している  
→交換が必要
- ④取付けは付属のプラグレンチで締め付けます。強く締めすぎるとシリンダヘッドのネジ山を破損する恐れがあります。
- ⑤電極カブラを根元までしっかり差し込みます。

※清掃・交換のしかたは、取扱説明書を参照してください。

### 01 キャブレター(ガソリンエンジン搭載)

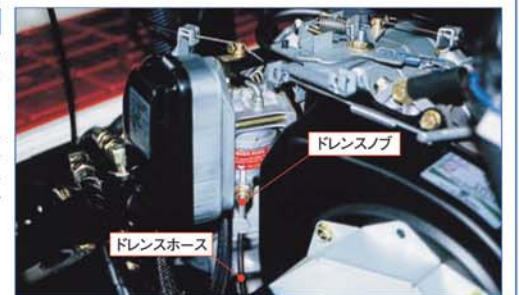
こんな時は清掃または交換

- 燃料を入れた状態で保管している。
- ガソリンが変色・変質している。

燃料タンクおよび気化器(キャブレター)より、古いガソリンを完全に抜き取り、新しいガソリンに交換します。

#### キャブレター内の燃料の抜き方

- ①キャブレターの下部にあるドレンホースの下に燃料を受ける容器を置いてください。
- ②ドレンノブを引くと、ドレンホースから燃料が流れ出てきます。ドレンノブから手を離すと、ドレンホースから流れ出ていた燃料が止まります。



# 旬の農業書

充実した営農へのヒントがいっぱい。  
いま旬の農業書をお届けします。



シリーズ はたらく農業機械⑨  
**田植機**  
器用な爪できれいにスイスイ

高井宗宏監修/こどもくらぶ編  
定価:2,310円(税込)  
出版:農山漁村文化協会(農文協)

人にはできない早さと正確さで苗を植えつける田植機。手植えの動作を見事に機械化したおどろきのしくみや種類、はたらき、開発の歴史などを写真とイラストを駆使して描く(稲作用以外の播種機、移植機なども紹介)。



**酒粕の美味しいレシピ**  
寺田本家 蔵人直伝の酒粕料理帖

著者 なかじ  
定価:1,365円(税込)  
出版:農山漁村文化協会(農文協)

造り酒屋の蔵人・なかじが教える、古くて新しい素材・酒粕を使ったレシピ集。発酵調味料からおかず、スイーツ、各地の郷土料理まで多彩にラインナップ。酒粕の健康・美容効果、酒造りの歴史・文化まで誌上公開!



**ドキュメント 口蹄疫**

宮崎日日新聞社 著  
定価:1,995円(税込)  
出版:農山漁村文化協会(農文協)

家畜伝染病「口蹄疫」事件。終息から1年余を経て、地元紙の目で発生から終息までの動きを丹念にふり取り、問題点検証と再発防止や復興についての論点を提供。第26回農業ジャーナリスト賞を受賞した一連の報道を再構成。



小祝政明の実践講座5  
**有機栽培の病気と害虫**  
出さない工夫と防ぎ方

著者 小祝政明  
定価:1,890円(税込)  
出版:農山漁村文化協会(農文協)

ミネラル優先・チッソ後追いの、施肥で作物の、中熟堆肥+太陽熱養生処理。で畑と土の防御力をアップ。さらに、堆肥菌液、納豆水など有用菌群の土壌施用や作物散布との合わせ技で防ぐ有機栽培の病気と害虫。



農家が教える  
**自給エネルギー**  
とことん活用読本  
光、風、水、薪、もみ殻……

農文協 編  
定価:1,200円(税込)  
出版:農山漁村文化協会(農文協)

身の回りに眠っているエネルギーを暮らしに活かす、小さなエネルギー自給の多彩な例を楽しく紹介。3.11大震災と原発事故以来、高まるエネルギー議論の中、自然エネルギーの未来を考える上で必読の書。



作物を守る共生微生物  
**エンドファイトの働きと使い方**

著者 成澤才彦  
定価:1,680円(税込)  
出版:農山漁村文化協会(農文協)

作物を病害虫から守り健康にすると、無農薬や自然農法で注目の共生微生物。生態から働き、分離・採取方法、増殖、使い方、利用の可能性を、第一人者がわかりやすく紹介。酸性土壌での栽培、環境浄化への利用も可能。

お問合せ・ご注文は  
農文協  
「田舎の本屋さん」  
まで  
下記のいずれかの方法で  
ご注文ください。

**郵便**  
〒107-8668  
東京都港区赤坂郵便局  
私書箱第15号農文協  
「田舎の本屋さん」宛

**電話**  
03-3585-1141  
(9時～17時)

**FAX**  
0120-133-730  
(24時間受付)

**インターネット**  
田舎の本屋さん  
<http://shop.ruralnet.or.jp/>

■荷造送料  
何冊でも1回400円。  
■お支払い  
同封の郵便振替用紙  
でお支払い下さい。  
■お届け  
1週間程度でお届け  
します。地域によって、もう  
少しお時間をいただく  
場合もございます。

**希望者  
全員  
プレゼント!**

農業関係の図書を  
網羅した農業書協  
会編「日本農業書総  
目録」を希望者全員  
にプレゼント。

ご応募は、下記項目  
をご記入の上、注  
文専用フリーFAX  
へ送付をお願い致  
します。

①ご住所 ②お名前  
③お電話番号  
④ご年齢  
⑤ヤンマーWF22号  
係宛「目録希望」

応募締切:  
平成24年4月30日

個人情報は、プレゼントの発  
送や新刊案内などにのみ使  
用します。ご了承ください。

旬の農業書コーナープレゼント応募や農業書の注文は、  
FAX 0120-133-730 [送付料無料・24時間受付]までお願い致します。

※表示価格は税込みです。

Home  
made  
Cooking

身近な素材で  
手軽に  
クッキング!

果実たっぷり、  
定番人気スイーツ!!

## 米粉ミックス粉のフルーツロール



甘いクリームの中から顔をのぞかせる可愛いイチゴやキウイ。子どもからお年寄りまで、定番人気のスイーツ、フルーツロールの登場です! 米粉ミックス粉は、しっとりしているので上手に焼けるのが魅力。粉じたいに甘さがあるので、砂糖も控えめにできてヘルシーです。

**分量**・30×30cmの天板1枚分

【生地】  
卵(L)・・・3個  
砂糖・・・80g  
米粉ミックス粉・・・80g  
無塩バター・・・20g  
牛乳・・・20cc

【シロップ】  
水・・・50cc  
砂糖・・・25g  
黄桃シロップ・・・20cc

【クリーム】  
生クリーム・・・200cc  
砂糖・・・20g

【その他お好みで】  
いちご、キウイ、バナナ、黄桃

**作り方/所要時間:60分**

- ① ボールに卵と砂糖を入れて、湯せんにかけ、まぜながら人肌まで温める。次に湯せんからおろしてリボン状の形が消えなくなるまで泡立てる。  
米粉ミックス粉を入れゴムヘラでサックリませ、牛乳とあわせて湯せんで溶かしたバターを入れて混ぜる。
- ② クッキングシートを敷いた天板に①の生地を流し、平らにならしたあと180℃に温めたオーブンで20分ほど焼く。焼き上がったらシートごと網に取り出し、冷ます。
- ③ 水、砂糖を火にかけて沸騰させ、冷ましたあと、黄桃シロップ(缶詰め)を加える。  
生クリームに砂糖を入れ8分立てに泡立て、フルーツはカットしてしておく。
- ④ クッキングシートの上に生地の焼き目を下にして置き、全体にシロップを塗る。クリームを全体に塗り広げフルーツをのせる。端からクルクルと巻き、シートで包んで休ませ、好みの大きさにカットする。

写真レシピ提供  
新潟県米消費拡大推進協議会発行  
米粉愛のお料理読本(第2号)より

あが家の  
ステキな女性へ  
Wonderful Women

教えてください。あなたのお家のステキな女性のこと。

アンケートをお送り  
いただいた方の中から  
30名様に図書カード  
(1,000円分)をプレゼント!

(掲載させていただいた方にはもれなく  
プレゼント致します)  
応募締切:平成24年6月30日  
弊社到着分までと  
させていただきます。

京都府

中学1年の長男、  
小学3年の次男、  
保育所の長女、と子育てしながらの  
パート、毎日ご苦労様。  
私の年になったら  
農作業もして下されます様にね。  
私(鈴子)→次男の嫁

北海道

いつも力仕事有難う。  
(僕が事故にあって以来は。)

昌一さん→浩美さん

青森県

いつも苦勞かけ  
本当にごめんなさい。感謝しています。  
これからも体に  
気をつけて頑張って下さい。

夫→妻

茨城県

52歳からの再出発!!  
成功あるのみ!!  
明るい将来!!  
明るい老後!!

Yさん→Nさん

三重県

忙しく家の中が  
散乱して来た頃に仕事帰りに  
そっと家に寄って片付け、1品を作って  
行ってくれる優しい人に育て  
くれた事に感謝。いつまでも元気でね!!

母→娘(洋美)

沖縄県

チビなあなたは、我が家では  
大きな存在。弟の面倒をみたり、  
お父さんの話相手になったり、  
お母さんの手伝いをしたり。4月から  
離れて暮らすのが寂しいなあ。  
いつでも帰っておいでね。

母→娘

北海道

毎日、朝早くから  
仕事お疲れ様です。小さい頃から  
家で搾った牛乳が大好きでした。  
もうすぐ子供が産まれるので、子供と一緒に  
帰るから、その時は美味しい牛乳  
たくさん飲ませて下さい。

娘→母

青森県

頑張りやのお母さんありがとう。  
4月で結婚40年。本当にありがとう。  
これからも健康でよろしく!!

夫→妻(恵美子さん)

秋田県

いつも一番働いてくれる妻。  
春は田植の隅っこを  
全部植えてくれるし、秋には又全部隅っこを  
刈り取ってくれる。私は機械に乗ってだけで。  
いつもカンシャ、カンシャでいっぱいです。  
二人でいつまでも元気で頑張ります。

夫→妻

滋賀県

農業は一人では出来ない。  
少しでも手伝ってくれば  
それだけ長く農に携わることが出来る。  
それが二人(夫妻)の長生きの秘訣に  
つながる。これからまたのみますよ。

夫→妻

秋田県

田んぼの作業、畑作業、  
何も農業などやった事のない妻が  
今、一・倍作業頑張っている。  
体につけて欲しいと願っています。

夫→妻

岩手県

見事なハンドルさばきで  
トラクターを操る姿に  
ほれほれます。  
これからも安全運転で頑張って!!

旦那さん→奥さん

今回のワンダー・フィールドも、「農業で働くステキな女性Wonderful Women」へご家族の皆さまからのメッセージを大募集します。  
日ごろは照れくさくて、なかなか面と向かって口に出しては言えない言葉や思い、エピソードをハガキに書いて贈ってみませんか?  
妻へ、母へ、娘へ…。ワンダー・フィールドがあなたに代わってお届けいたします。

(次号に掲載させていただきます。多数ご応募の場合は選考させていただきますのでご了承ください。)

**応募要項**  
作品テーマ わが家のステキな女性へ! Wonderful Women  
作品文字数 何文字でも結構です。応募ハガキにおさまらない場合は封書にてお送りください。  
また、写真等をお送りいただける場合も恐れ入りますが封書にてお送りください。  
送り先 〒530-8321 大阪市北区鶴野町1-9 梅田ゲートタワー  
ヤンマー農機販売株式会社「わが家のステキな女性へ」係 ※応募作品の返却はいたしません。  
締切 平成24年6月30日弊社到着分  
発表 次号Vol.23に掲載いたします。多数ご応募の場合は選考させていただきますのでご了承ください。

応募はカンタン!  
こちらの綴じ込み  
ハガキどうぞ!

写真がある場合や書ききれ  
ない場合は恐れ入りますが  
封書でお送りください。

\*ヤンマーグループでは個人情報の保護についての法令を遵守し、お客様の個人情報の適切な運用・管理を行います。ご記入いただいたお客様の個人情報は、新製品や  
イベント等のご案内及びアフターサービスの充実などに利用させていただきますこと以外、使用することはありません。

第22回

# ヤンマー学生懸賞論文・作文入賞者発表

“進化する農へ挑戦 創ろう 活かそう 価値を未来へ”～生命を育む「食」、食を生み出す「農」、  
環境を守る「農山漁村」～をテーマとした懸賞論文に76編・作文に518編の応募をいただきました。

厳正な審査の結果、論文13編・作文28編を優秀作品として決定いたしました。



論文の部 入賞者の皆さん



作文の部 入賞者の皆さん

## ◆論文の部 入賞

入賞区分	氏名(代表者) 学校名/学部名/学科名	作品名
大賞	七戸 美咲 青森県営農大/畜産課程	牛とともに生きる ～震災の経験から考えた新しい 地域ブランド肉牛生産のかたち～
特別 優秀賞	寺尾 聡美 立命館大/国際関係学部/国際関係学科	中山間地域の農業経営 ～不可能を可能にする2つの「挑戦」～
特別 優秀賞	伊藤 千春 高崎経済大/経済学部/経営学科	パンフレット配布による観光客誘致 ～「行列のできる直売所」を目指せ!～
優秀賞	瀬戸 秀幸 鹿児島県立農大/畜産学部/養豚科	豚の幸せと近代養豚の境界線 ～豚のことは豚に聞こう!～
優秀賞	中田 康太 宮崎県立農大/農学部/園芸経営学科	完熟きんかんの台湾輸出に向けて
優秀賞	増澤 享平 信州大/農学部/食料生産科学科	地産地消の直売所 ～農産物はお土産になるか?～
優秀賞	村石 龍之輔 学習院大/経済学部/経営学科	ブルーーツリズムによる漁業活性化施策 ～お残しは、許しませんで～
優秀賞	田中 緑 学習院大/経済学部/経営学科	ストーリーマーケティングによる 魚食文化の活性化
優秀賞	菅野 直樹 岡山大学/農学部/総合農業科学科	ニューファーマーに学ぶ ～私がニューファーマーになるために～
優秀賞	栗田 一平 京都大/農学部/地域環境工学科	農業界に新風を巻き起こす怪獣 ～農(ミノラ)～
優秀賞	青田 涼 岡山大学/農学部/総合農業科学科	農村女性リーダーは、幸せのリーダーへ ～幸福度7.6の輝き～
優秀賞	的場 朱里 和歌山大/観光学部/地域再生学科	農業・農村の多角化と農家女性の役割
優秀賞	鳥越 久史 大分大/経済学部/地域システム学科	「俺らが放棄地おしちゃん」 ～栽培・醸造・農泊、一休型経営の可能性～

## ◆作文の部 入賞

入賞区分	氏名 学校名/学部名/学科名	作品名
金賞	坂田 智胡 愛知県立農大/教育学部/農学科	牛への思い
銀賞	安田 光 鹿児島県立農大/畜産学部/肉用牛科	「沖永良部から日本を元気に」 ～私が目指すもの～
銀賞	井田 剛 長崎県立農大/農学部/野菜学科	農が与えてくれたものと感謝
銅賞	細川 晴日 滋賀県立農大/農学部/養豚科	私がじぶんの農業をみつづけるまで
銅賞	松元 武蔵 宮崎県立農大/農学部/畜産経営学科	マイ「農業」ライフ
銅賞	瀧山 幸波 宮崎県立農大/農学部/園芸経営学科	農業界への新規参入を目指して
銅賞	佐藤 慎平 山形県立農大/農学部/園芸経営学科	目指すは笑顔
銅賞	吉村 藍里 福岡県立農大/農学部/養豚科	光の塵を捕まえる
銅賞	川瀬 竜也 新潟県立農大/農学部/稲作経営科	～心の変化～農業への思い
銅賞	平井 亮 新潟県立農大/農学部/研究科	生涯の目標
銅賞	小島 太一 熊本県立農大/農学部/畜産学科	乳(new)～新たな酪農をめざして～
銅賞	深浦 理紗子 長崎県立農大/農学部/畜産学科	農業大学校への道のり
銅賞	石橋 あゆみ 大分短期大/園芸科	10年後のおばあちゃん、お父さんへ

## ◆作文の部 奨励賞 氏名 学校名/学部名/学科名

兒玉 浩正 鹿児島県立農大/畜産学部/養豚科	重盛 貴章 宮崎県立農大/農学部/園芸学科	石川 あゆみ 大分県立農大/農学部/総合農産科	山田 貴平 福島県農業総合センター 農業短期大/農学部/園芸学科
惠森 賢志郎 鹿児島県立農大/畜産学部/養豚科	山田 倫之 愛知県立農大/教育学部/農学科	島腹 貴宏 山形県立農大/野菜・花き経営学科	工藤 寿美礼 岩手県立農大/農産園芸学科
浦城 翔太 三重県立農大/養豚科	原口 豊 鹿児島県立農大/農学部/花き科	齋藤 貴樹 山形県立農大/稲作経営学科	福永 梨花子 大分短期大/園芸科
酒井 美穂 愛知県立農大/教育学部/研究科	山本 征太 鳥取県立農大/農業経営学科	伊藤 久子 福島県農業総合センター 農業短期大/農学部/畜産学科	